



SOMPO インスティテュート・プラス

安心・安全・健康のテーマパーク

ワーケーション実証実験報告書

イノベーション、メンタルヘルス、生産性、エンゲージメント向上に対する効果と
地方自治体への経済波及効果

2023年6月12日

SOMPO インスティテュート・プラス株式会社

企画・公共政策グループ

目次

1. 実証実験の概要 (要約)

(1) 調査背景

(2) 調査目的・方法

- ① ワークेशन実施が従業員に与える効果の測定
- ② ワークेशन導入による地方への経済波及効果の測定

2. 調査結果

(1) イノベーション、メンタルヘルス 生産性、エンゲージメント向上に対する効果

結果

- ① イノベーション、メンタルヘルス
- ② 生産性
- ③ ワークエンゲージメント

(参考) 効果測定の実施方法

(2) 地方自治体への経済波及効果

- ① 効果測定の実施方法
- ② 結果

(3) 回答者プロフィール

- ① 年齢、② 性別、③ 婚姻
- ④ 年収、⑤ 業種、⑥ 所属
- ⑦ 役職、⑧ 勤務形態

(4) ワークेशन全般事項

- ① 参加費、② 参加した地域
- ③ 宿泊日数、④ 宿泊施設
- ⑤ 利用したワークスペース
- ⑥ 参加したプログラム
- ⑦ 訪問目的、⑧ 訪問先選定理由
- ⑨ 満足度、⑩ 訪問先貢献可能性
- ⑪ 良かった点、⑫ 改善点

< 参考資料 >

- ① 実証実験プログラム一覧
- ② 実施状況(写真集)
- ③ WFun測定方法・実施結果
- ④ 経済波及効果の測定方法



| 要約

要約

ワーケーション実証実験によって、従業員のイノベーション、メンタルヘルス、生産性、エンゲージメントに与える影響を測定しました。また、地方自治体に対する経済波及効果を、実測値に基づき推計しました。

【イノベーション】

社内外で新しい関係をはじめられる組織体質をベースに生まれるという前提の下、「他者への信頼」を数値化することで、イノベーションがどの程度、生まれやすい状況にあるかを表している。当実験においては、企業組織の垣根を超えたオープンイノベーション(顧客・社外への信頼の2指標)、会社・部署横断によるコラボレーション(社内への信頼)、上司やメンバーを信頼するチームワーク(チームへの信頼)の4指標で計測している。

(測定結果)

ワーケーションは連携への好影響が期待され、イノベーションの醸成に役立つことが実証されました。

要約

➤ 普段の働き方による差異

普段はテレワーク中心の方は、プラスの影響が強く出ています。テレワークは、人との接触頻度が落ちるといふ弊害が挙げられますが、ワーケーションをきっかけとした社内外・同一部署・他部署との交流が、プラスに働いていると考えられます。オフィスワーク中心の方もプラス効果が見られ、環境を変えて、普段は接することの少ない人との交流が、プラスに働くこと示唆されます。普段からオフィスワークとテレワークのハイブリッドを行っている方には、プラスの効果は見られませんでした。普段からテレワーク・オフィスワーク双方のメリットを享受し、環境を変えるというチェンジコストを上回れなかったものと推察されます。

➤ 職位による差異

メンバー(非管理職)にプラスの効果が強く出ている一方で、マネジメント(管理職)は効果は見られませんでした。メンバーは普段、他部署・社外と接する機会が少なく、ワーケーション実施前のイノベーション指標が、マネジメント層と比べて低い傾向にあります。ワーケーションという非日常における他部署との交流が寄与したものと想定され、ワーケーションが経験値の浅い従業員に対する教育的価値を提供する可能性を示唆しています。

要約

【メンタルヘルス】

疲労、緊張などストレスの自覚症状(ストレス反応)、ストレスの解消方法(ストレスコーピング)、ストレス原因の自覚(ストレッサー)によって計測される。

(測定結果)

メンタルヘルスに関する指標も、**総じて改善**しました。特に、**「仕事時間の余裕」に関する改善幅が大きく**、働き方による差異は、オフィスワーク、ハイブリッド、テレワークの順に、改善が見られました。**「通勤時間がない分、時間に余裕が生まれたものと考えられます」**。

【生産性】

プレゼンティーイズム(出勤はしているが、健康上の理由により業務に支障が生じている状態)を指標に計測される。病気やけががないときに発揮できる仕事の出来を100%として、過去4週間の自身の仕事を評価した場合をプレゼンティーイズムとして計測される。

要約

(測定結果)

ほぼ変化を及ぼしませんでした。ワーケーションの実施期間が1週間に満たず、生産性に変化をもたらすほど期間が長くないことや、地域課題解決のプログラムを実施することで、日常業務に割く時間が減ったことが要因として考えられます。

【ワークエンゲージメント】

仕事に関連するポジティブで充実した心理状態であり、活力、熱意、没頭によって特徴づけられる。仕事時間の余裕、仕事負荷の余裕、ワークホリック(仕事への義務感、休暇に対する罪悪感)、仕事への関心の4指標によって計測される。

(測定結果)

ワークエンゲージメントも同様に、全体としてほぼ変化を示しませんでした。一方、30代以下の若年層や、普段オフィス勤務をしている従業員ではエンゲージメントが向上する傾向があることが明らかとなりました。

ワーケーションには、時間と場所を柔軟に変えられる特徴がありますが、今回は、場所を変えることでエンゲージメントが向上したと考えられます。また、こうした傾向は環境変化に適応しやすいと思われる若年層に表れています。

要約

【経済波及効果】

実施した各県における経済波及効果の推計は次のとおりです。

前提: ワークーション参加人数(年間)

ワークーション実施による経済波及効果

和歌山県
徳島県
長崎県

約 5,000人
約 2,000人
約 6,400人

約 5億円
約 2億720万円
約 2億7,500万円

前提: 再訪者数(年間)

再訪(観光)による経済波及効果

和歌山県
徳島県
長崎県

約 1,500人
約 650人
約 1,900人

約 1億5,000万円
約 6,200万円
約 8,200万円

要約

【経済波及効果】

	前提: 移住者数(年間)	移住・定住による経済波及効果
和歌山県	50人	約 8,900万円
徳島県	22人	約 4,700万円
長崎県	64人	約 1億5,000万円

	前提: 二拠点居住実施人数(年間)	二拠点居住(兼業・副業)による経済波及効果
和歌山県	50人	約 4,400万円
徳島県	22人	約 2,300万円
長崎県	64人	約 7,500万円

【10年間で生じる経済波及効果(再訪、移住・定住、二拠点居住を含む)】

和歌山県	約 123億円
徳島県	約 58億円
長崎県	約 136億円



| 1. 実証実験の概要



| (1) 調査背景

調査の背景

新型コロナウイルス感染症対策として、オフィス勤務からテレワーク・在宅勤務に転換することで、新しい働き方が模索されてきました。

第3の働き方として、ワーケーションを取り入れることで、イノベーション、メンタルヘルス、生産性、エンゲージメントの向上に寄与するのか実証実験を企画しました。

例えば、所属する組織や、他組織とリアルで接する機会を持つことで、新たな発見(イノベーションの種)が創出されるのかを検証しました。

オフィス勤務からテレワークが定着する中で、コミュニケーション不足によるデメリットを訴える声も散見されます。現在のテレワーク活用状況を維持しつつ、ワーケーションが課題を解消する新たな働き方となり得るのでしょうか。

ワーケーションの効能・メリットは既に議論されていますが、本実証実験では、定量化・見える化を試みました。



| (2) 調査目的・方法

調査目的・方法

調査目的	①ワーケーション実施が従業員に与える効果の測定 ②ワーケーション導入による地方への経済波及効果の測定
調査対象者条件	民間企業に就労する全国の男女 (和歌山県、長崎県、徳島県が実施するワーケーションプログラムに参加する者)
回収サンプル数	最大58サンプル
集計サンプル数	最大48サンプル 最小43サンプル ※項目ごとに欠損値処理
調査手法	①WEBアンケート調査(ワーケーション実施前後) ②領収書メール回収
調査時期	2022年12月～2023年1月
調査実施機関	SOMPOインスティテュート・プラス株式会社
調査協力機関	(株)シンギュレイト社



| 2. 調査結果

| (1) イノベーション、メンタルヘルス 生産性、エンゲージメント向上に対する効果

| ①結果：イノベーション・メンタルヘルス

結果：イノベーション・メンタルヘルス

- ◆ ワークーション実施前後のイノベーション(他者への信頼)、メンタルヘルスは、全体として向上しています。
- ◆ イノベーション4指標を見ると、コラボレーション(部署横断)(社内への信頼)が0.21と最も高く、次いで、オープンイノベーション(社外)(社外への信頼)、チームワーク(部署内)(チームへの信頼)が0.11、オープンイノベーション(顧客)(顧客への信頼)が0.01となっていました。
- ◆ **ワークーションは社内外のイノベーション指標を高め、素早い連携への好影響が期待される結果となりました。**

※イノベーションとは、オープンイノベーション(顧客)(社外)、コラボレーション(部署横断)、チームワーク(部署内)の4指標から測定される。

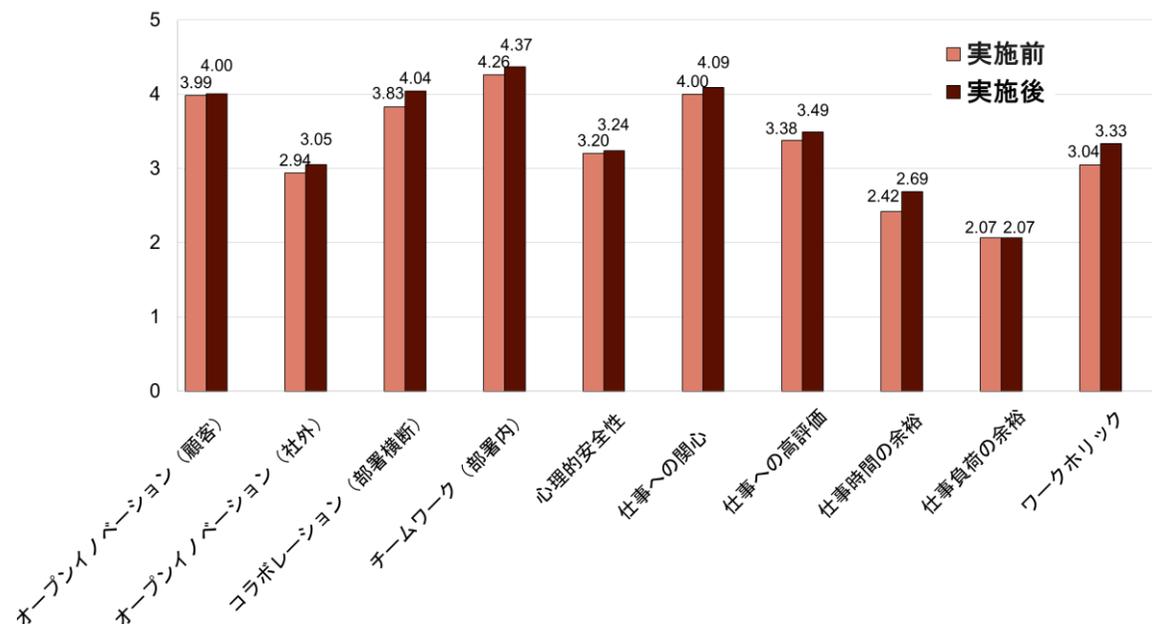


図 ワークーション実施前後のイノベーション・組織コンディション(ストレス)の変化

結果：イノベーション・メンタルヘルスの変化率

- ◆ イノベーション4指標を見ると、コラボレーション(部署横断)(社内への信頼)が最も高く(実施前比5.61%)、次いで、オープンイノベーション(社外)(社外への信頼)、チームワーク(部署内)(チームへの信頼)(実施前比3.93%、2.51%)、オープンイノベーション(顧客)(顧客への信頼)(実施前比0.46%)となっていました。
- ◆ メンタルヘルス6指標は、仕事時間の余裕が最も高く(実施前比11.01%)、次いで、ワークホリック(実施前比9.53%)、仕事への高評価(実施前比3.29%)、仕事への関心(実施前比1.10%)となりました。
- ◆ ワークেশョンは社内外のイノベーション指標を高め、連携への好影響が期待される結果となりました。

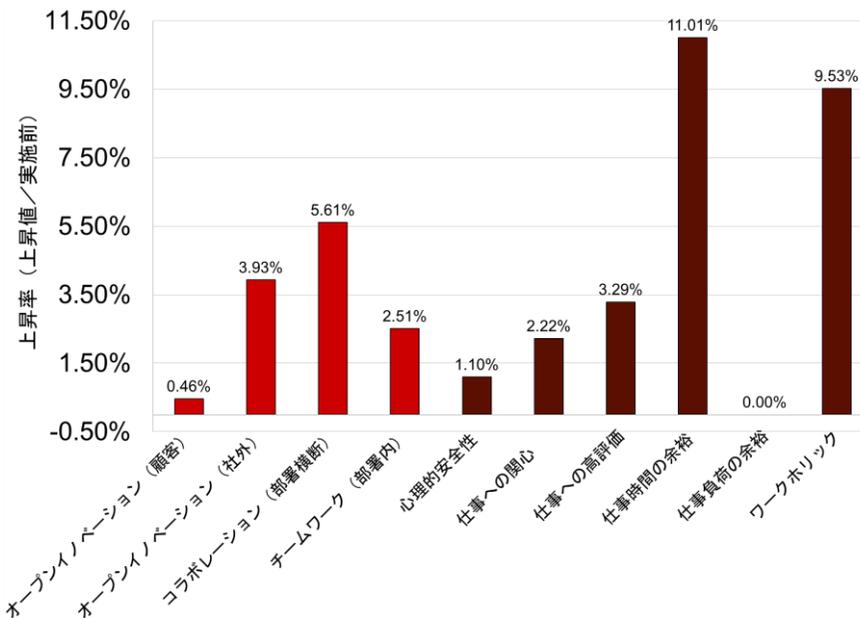


図 ワークেশョン実施前後のイノベーション・組織コンディション(ストレス)の変化率

結果：イノベーション（勤務形態別）

- ◆ ワークेशन実施前は、オフィスワークはイノベーション指標が低いです（左表）。
- ◆ 実施後、オフィスワークは、特に社外とのオープンイノベーションが高くなっていました（右表）。
- ◆ ハイブリッドはもともと高いこともあり、ワークेशन実施では向上しませんでした。（左・右表）
- ◆ **ハイブリッドが普段からテレワーク・オフィスワーク双方のメリットを享受し、環境を変えるというチェンジコストを上回れなかったものと推察されます。**

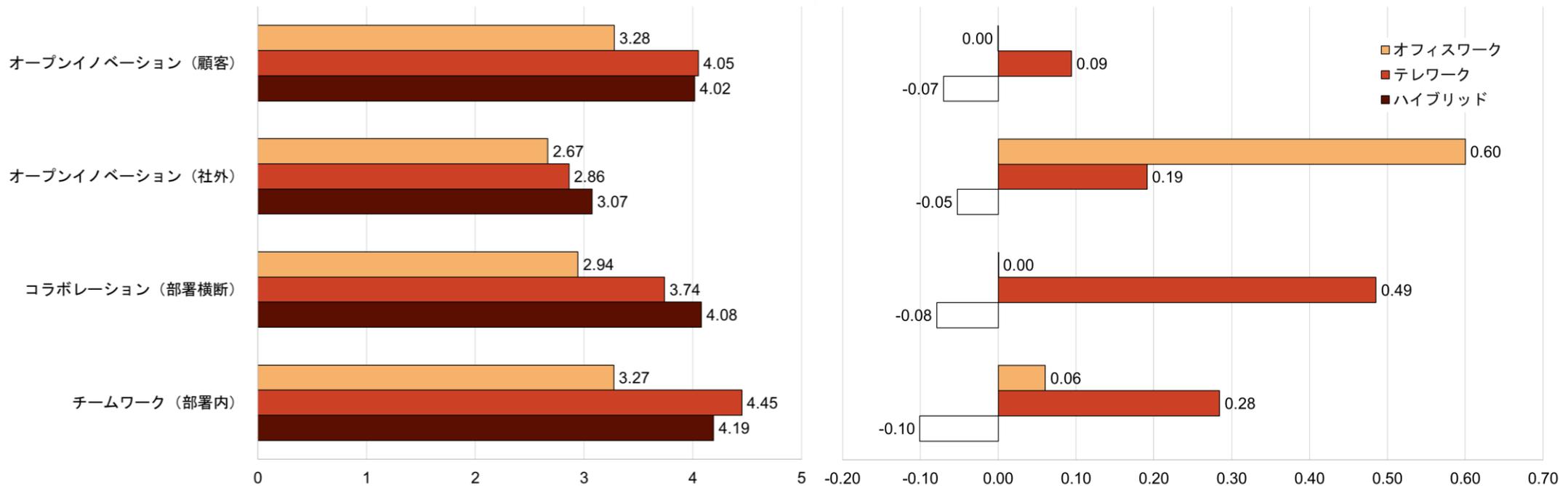


図 ワークेशन実施前のイノベーション(左)、変化率(右)(勤務形態別)

結果：イノベーション（役職別）

- ◆ ワークーション実施前では、オープンイノベーション（社外）を除く3つの指標については、マネジメント職の数値が高い傾向にありました。
- ◆ メンバーは普段、他部署・社外と接する機会が少なく、ワークーション実施前のイノベーション指標が、マネジメント層と比べて低い傾向にあります。
- ◆ **マネジメント（管理職）は効果は見られませんでした。一方で、メンバー（非管理職）にプラスの効果**が強く出ています。
- ◆ **ワークーションという非日常における他部署との交流が寄与したものと想定され、ワークーションが経験値の浅い従業員に対する教育的価値を提供する可能性を示唆しています。**

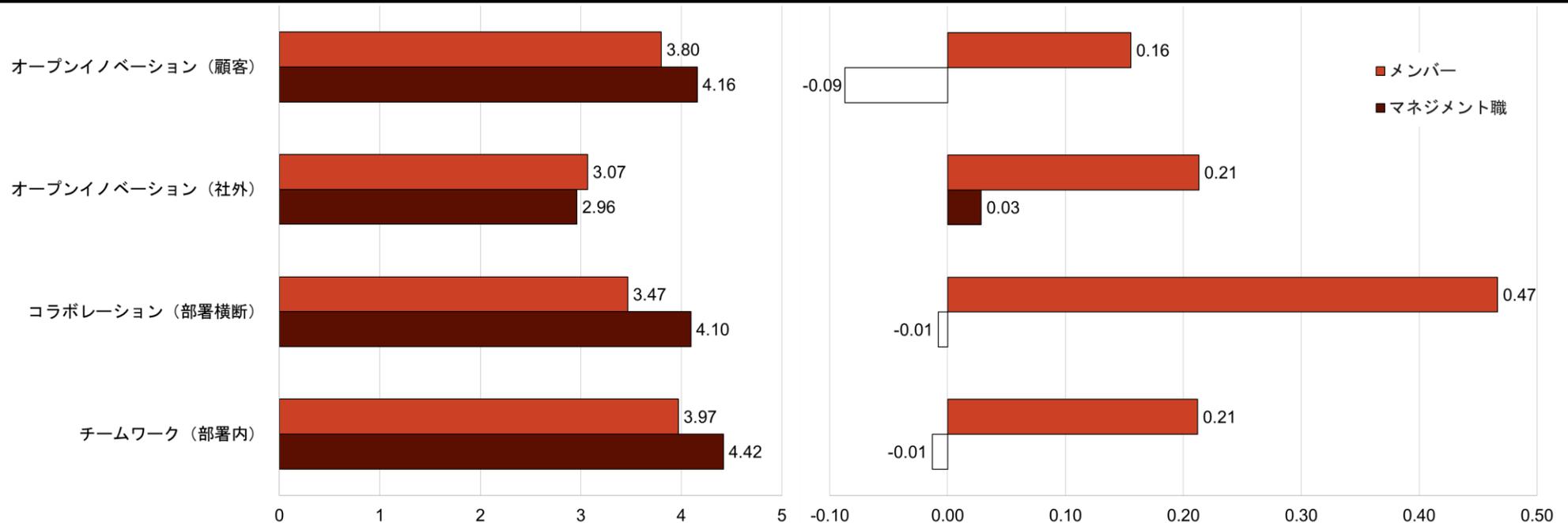


図 ワークーション実施前のイノベーション（左）、変化率（右）（役職別）

| ②結果：生産性

結果：生産性

- ◆ 生産性については、83%→82%とほぼ変化がありませんでした。
- ◆ (注)心身ともに何の支障もない時の生産性を100%とした場合、直近4週間の生産性を計測し、差し引いた値をSPQ(プレゼンティーズム)(※2)として算出しています。

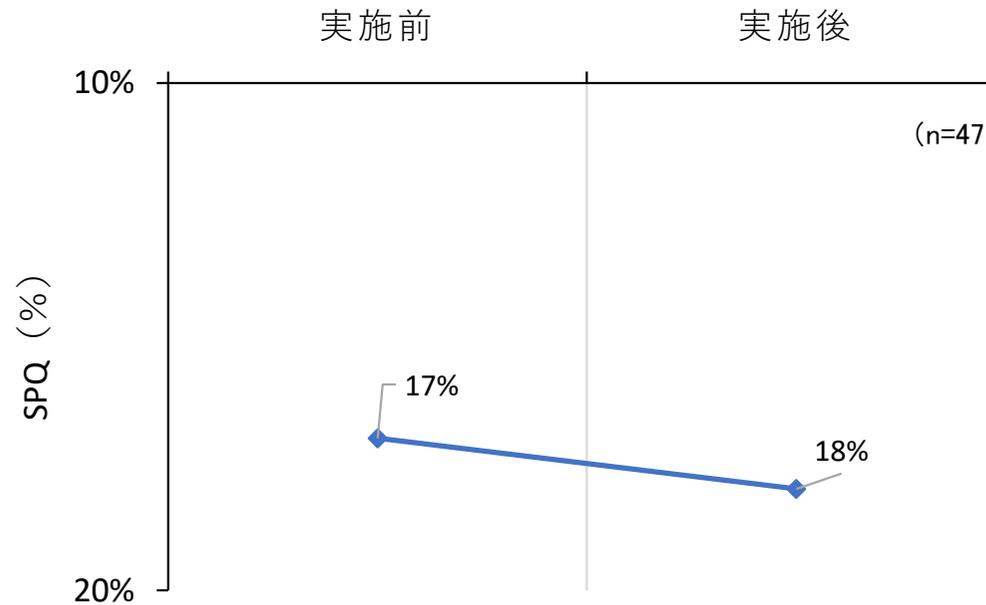


図 ワークेशन実施前後のSPQの推移
(値が下がると生産性が上がると解釈される)

(※1) $100\% - 17\% = 83\%$ (※2) $100\% - 18\% = 82\%$

(※2) 何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し、なんらかの体調不良があるまま働いている状態。

結果：生産性（年齢別）

- ◆生産性指標は、ワーケーションの実施前後で、大きな改善は見られませんでした。
 - ◆一方、年齢別では、30代で最も生産性向上に寄与する結果となり、また、個人差は比較的少ないことが分かります。
- ※ワーケーション実施前後のSPQ(注)平均値の差分を年齢別に見ると、**30代で生産性の向上が見られました。**

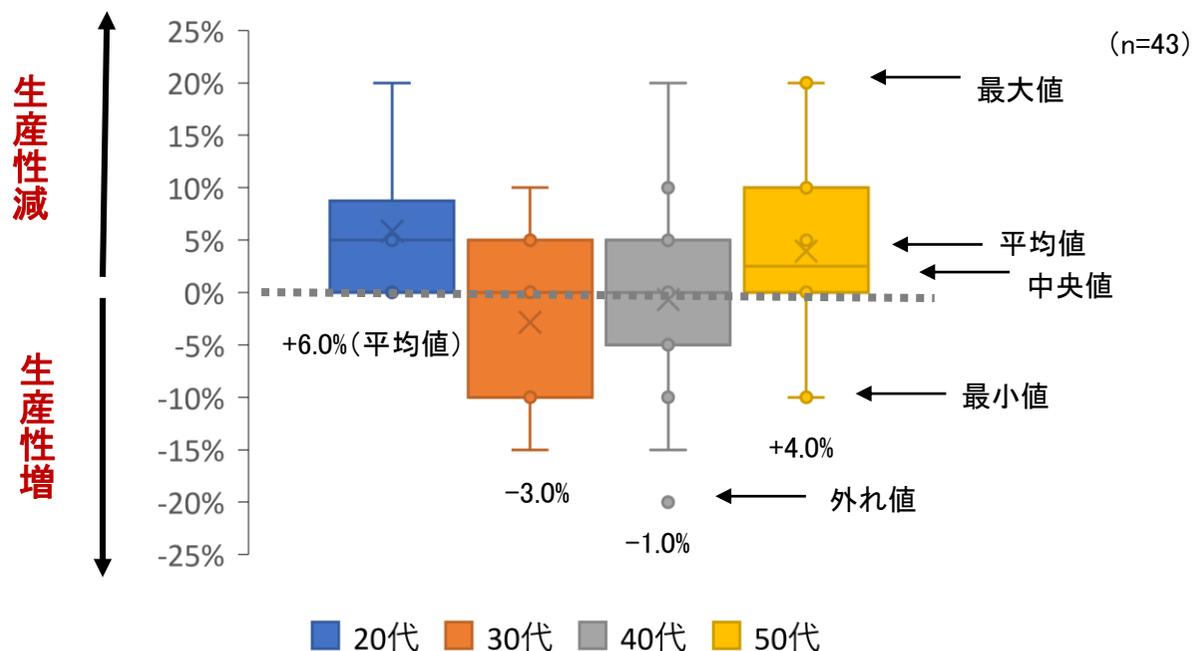


図 ワーケーション実施前後のSPQ平均値の差分（年齢別）

(注) SPQは、病気やけががないときに発揮できる仕事の出来を100%とし、過去4週間の自身の仕事を1~100%で評価し、差し引いた値をプレゼンティーズム(※)として算出した値。

(※) 何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し、なんらかの体調不良があるまま働いている状態。

| ③結果：ワークエンゲージメント

結果：ワークエンゲージメント

- ◆ ワークエンゲージメントについては、ワーケーション実施前後で、大きな改善幅は見られませんでした。
- ◆ このことから、ワーケーションは、エンゲージメントの向上に寄与しなかったと解釈できます。
- ※エンゲージメントは2.9ポイント⇒3.1ポイントとほぼ変化はありませんでした。

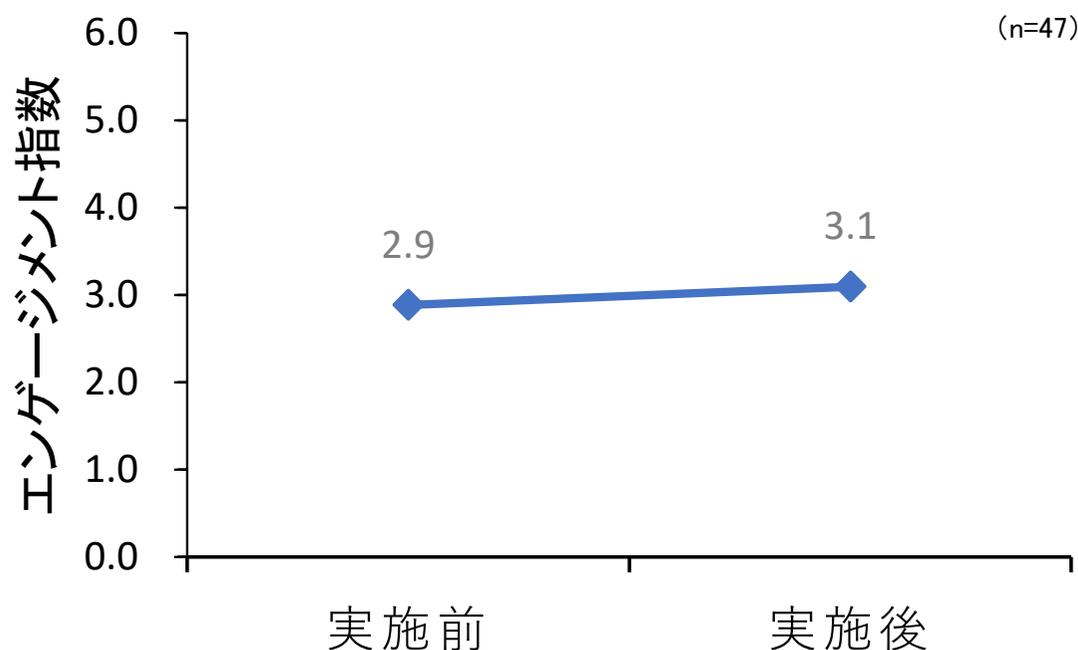


図 ワーケーション実施前後のワークエンゲージメント指数の推移

(注)ワーク・エンゲージメントとは、仕事に関連するポジティブで充実した心理状態であり、活力、熱意、没頭によって特徴づけられる。ワーク・エンゲージメントは、特定の対象、出来事、個人、行動などに向けられた維持知的な状態ではなく、仕事に向けられた持続的かつ感情と認知のことを指す。

結果：ワークエンゲージメント（年齢別）

- ◆ ワークーション実施前後のワークエンゲージメント指数の平均値の差分を年齢別に見ると、0.1～0.3ポイントの範囲で増加しています。
- ◆ このことから、エンゲージメントは、年齢による差異はないと解釈できます。
- ※ ワークーション実施前後のワークエンゲージメント平均値の差分を年齢別に見ると、0.1～0.3ポイントの範囲で増加していました。

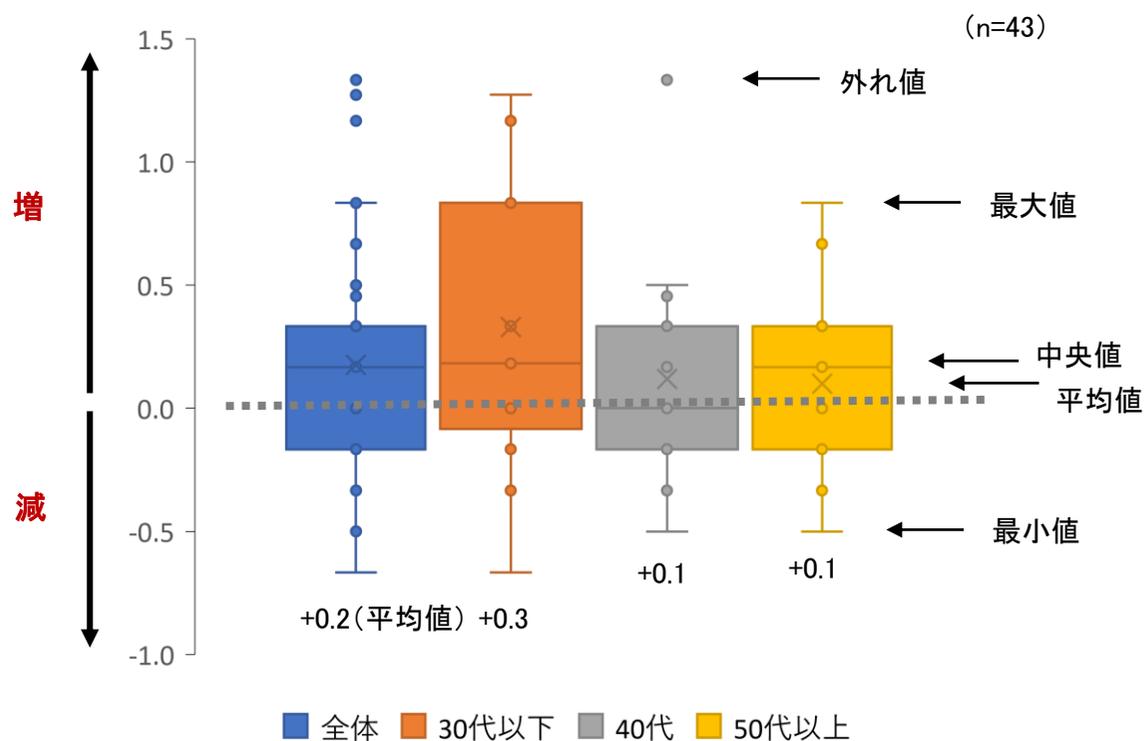


図 ワークーション実施前後のワークエンゲージメント指数の推移

結果：ワークエンゲージメント(勤務形態別)

- ◆勤務形態別で見ると、オフィスワークで0.9ポイント、テレワーク経験者で0.1ポイント増加しており、エンゲージメントに寄与しています。
 - ◆普段と働く場所を変えることがワークエンゲージメントの向上をもたらした可能性があります。
- ※ワーケーション実施前後のワークエンゲージメント平均値の差分を勤務形態別に見ると、オフィスワークで平均値が0.9増加していました。

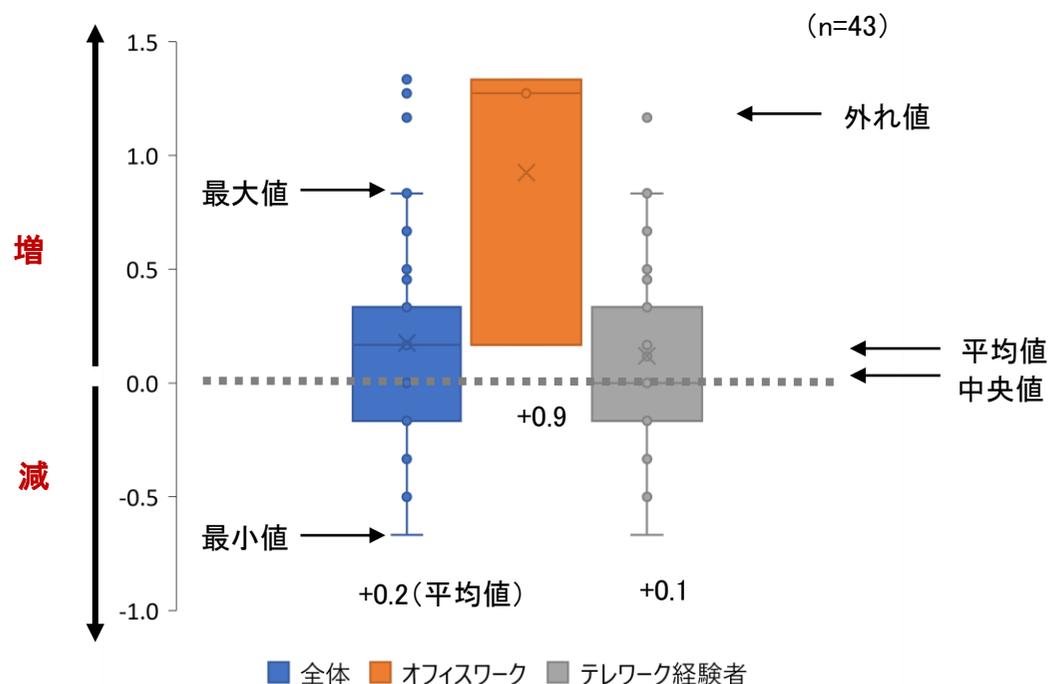


図 ワーケーション実施前後のワークエンゲージメント指数の推移

| (参考)効果測定の実施方法

効果測定の実施方法

①生産性の測定(1項目)

参加者の方の生産性を測定するために、プレゼンティーズム(※)を測定する尺度としてSPQ(Single-Item Presenteeism Question東大1項目版)を用いました。

SPQとは、平成27年度健康寿命延伸産業創出推進事業「東京大学ワーキング」で開発された、1項目の設問によりプレゼンティーズムを簡便に測定できる尺度です。

(a) SPQの設問とプレゼンティーズムの算出方法

SPQは1項目の設問により、簡易にプレゼンティーズムを測定することができます。

(b) 設問

病気やけががないときに発揮できる仕事の出来を100%として過去4週間の自身の仕事を評価してください。

_____ % (1~100%)

(c) 算出方法

プレゼンティーズム = 100% - 回答値

※何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し、なんらかの体調不良があるまま働いている状態

効果測定の実施方法

②エンゲージメントの測定(24項目) ※詳細は巻末参照

参加者の方のエンゲージメント、メンタルヘルスを測定するために、ワーケーション実施前後にWEBアンケート調査を実施しました。アンケート調査には、シンギュレイト社の組織コンディション(ストレス)調査票を用いました。

③ストレスの測定(5項目)

同様に、参加者の組織コンディション(ストレス)を測定するために、シンギュレイト社の組織コンディション(ストレス)の指標を用いてアンケート調査を実施しました。

④イノベーションの測定(45項目) ※質問項目は次頁参照

同様に、参加者のイノベーションを測定するために、シンギュレイト社の信頼(オープンイノベーション、コラボレーション、チームワーク)、心理的安全性の指標を用いてアンケート調査を実施しました。

効果測定の実施方法

(a)質問項目例と得点解釈の考え方

シンギュレイト社・組織診断サーベイの質問項目例は、以下の通りです。

質問項目例	
ワークエンゲージメント	仕事は私に活力を与えてくれる
オープンイノベーション	顧客への信頼 私が働いているような会社なら、知人や友人にも入社を薦める 街中などで私が手助けを求めれば、ほとんどの人は親切に対応してくれる
	社外への信頼 社外の人でも、自分の担当を超えて、自分や周りをできるだけ支援してくれる
コラボレーション	部署横断の信頼 社内とはいえ部署が違う方は、私に隙があれば、自分が都合の良い方に持っていってしまう
チームワーク	上司への信頼 直属の上司は、問題が起きたり強い要望がないと、進んで動いてくれない
	メンバーへの信頼 部署のメンバーや同僚は、必要な情報は隠さずに開示してくれる
心理的安全性	上司の心理的安全性 私は、前例にない思い切ったことやリスクの高いことをする場合、上司が気になって躊躇する
	メンバーの心理的安全性 部署のメンバーや同僚に、助けを求められない
組織コンディション	誰かに批判されたことが、1日中あとをひいて気になる
	おもしろいことがなく、気がふさぐ
5つの要因	仕事への関心 現在担当している業務に興味を持ってない
	仕事時間の余裕 急いでいて、時間と競争しているようである
	仕事負荷の余裕 ノルマや納期に追われる業務や責任の大きな仕事を担当している
	仕事への評価 仕事の成果が高く評価されない
	ワークホリック* 仕事を休んでいる時間は、罪悪感を感じる

(出典)シンギュレイト社提供

効果測定の実施方法

(b) 質問項目例と得点解釈の考え方

シンギュレイト社・組織診断サーベイの得点解釈の考え方は、以下の通りです。

組織開発の施策を検討するヒント

組織を測るだけでは、組織は良くなりません。
データ分析から実際の施策のヒントとなる情報を表にしました。

影響度の大きさ順（信頼項目）

イノベーション指標である5つの信頼（顧客、社外、部署横断、上司、メンバー）について、ワークエンゲージメントへの影響を順位で示しました。順位が上にある項目ほど、ワークエンゲージメントは大きく上昇します。優先順位の高い施策にもなるかもしれません。

この例では、「部署横断」の値が上昇すると、ワークエンゲージメントが大きく上昇します。表にある「今回」「前回」「差分」の値は、先ほど示した真ん中の表にある値と同じです。

のびしろ順（心理的安全性 詳細項目）

心理的安全性は5つの詳細項目に分かれます（支援、尊重、受容、役割期待、リスク回避）。この5つについて、小さい値を持つ項目を上から順に並べています。小さい値ほど、伸ばせる余地も大きいので、施策として取り組む優先順位があがるかもしれません。

影響度の大きさ順（ストレス要因）

組織コンディションを上げる要因である5つの影響について、順位を示しました。順位が上の方にある項目ほど、組織コンディションを変化させることができます。

この例では、仕事負荷の余裕の数値が上がると、組織コンディションの値が大きく変わります。仕事の負荷の余裕は影響度が大きいだけでなく、「今回」の値が2.4と小さいのびしろも大きいので、高い優先順位となります。

組織開発の施策を検討するヒント

影響度の大きさ順(信頼項目)	今回 2021/12	前回	差分	
1	部署横断への信頼	4.3	4.2	+ 0.1
2	顧客への信頼	3.8	4.0	- 0.2
3	社外への信頼	3.8	4.0	- 0.2
4	上司への信頼	4.6	4.6	± 0.0
5	メンバーへの信頼	4.8	4.7	+ 0.1

のびしろ順(心理的安全性詳細項目)	今回 2021/12	前回	差分	
1	リスク回避	4.2	4.6	+ 0.2
2	役割期待	4.3	4.1	+ 0.4
3	支援	4.7	4.5	+ 0.2
4	尊重	4.8	4.8	± 0.0
5	受容	4.8	4.8	± 0.0

影響度の大きさ順(ストレス要因)	今回 2021/12	前回	差分	
1	仕事負荷の余裕	2.4	2.2	+ 0.2
2	仕事への関心	4.9	4.7	+ 0.2
3	ワーカホリック*	3.4	3.3	+ 0.1
4	仕事への評価	3.6	3.6	± 0.0
5	仕事時間の余裕	3.7	3.6	+ 0.1

(出典)シンギュレイト社提供

| (2) 地方自治体への経済波及効果



| ①結果

結果（ワーケーション実施による経済波及効果）

- ◆和歌山県内ワーケーション実施推計値である**約5,000人／年**が本プログラムを実施した場合、県内消費による経済波及効果は、**約5億円**となります。
- ◆徳島県内ワーケーション実施推計値である**約2,000人／年**が本プログラムを実施した場合、県内消費による経済波及効果は、**約2億720万円**となります。
- ◆長崎県内ワーケーション実施推計値である**約6,400人／年**が本プログラムを実施した場合、県内消費による経済波及効果は、**約2億7,500万円**となります。

（単位：千円）

		和歌山県	徳島県	長崎県
生産 誘発額	直接効果	334,230	155,253	185,988
	第一次 波及効果	158,566	51,985	88,844
合計		492,796	207,238	274,832

結果（再訪（観光）による経済波及効果）

- ◆アンケート結果の中で、「訪問先にまた訪れたいと思いますか？」に対し「非常にそう思う」と回答した人が61%いたことから、このうち**約半数(30%)の人が実際に再訪すると仮定した場合**の経済波及効果についても試算を行った（一人当たりの消費金額はワーケーション実施と同額として試算）。
- ◆ワーケーションの実施によって和歌山県に**1,486人**が再訪すると仮定すると、再訪者による年間の県内消費による経済波及効果は、**約1億5,000万円**となります。
- ◆ワーケーションの実施によって徳島県に**650人**が再訪すると仮定すると、再訪者による年間の県内消費による経済波及効果は、**6,200万円**となります。
- ◆ワーケーションの実施によって長崎県に**1,910人**が再訪すると仮定すると、再訪者による年間の県内消費による経済波及効果は、**8,200万円**となります。

（単位：千円）

		和歌山県	徳島県	長崎県
生産 誘発額	直接効果	100,269	46,568	55,785
	第一次 波及効果	47,575	15,592	26,650
合計		147,844	62,160	82,435

結果（移住・定住による経済波及効果）

- ◆各県における年間のワーケーション参加者のうち、**1%の人が実際に移住を選択すると仮定した場合**の経済波及効果についても試算を行った。
- ◆ワーケーションの実施によって和歌山県に**50人**が移住すると仮定すると、移住者による年間の県内消費による経済波及効果は、**約8,900万円**となります。
- ◆ワーケーションの実施によって徳島県に**22人**が移住すると仮定すると、移住者による年間の県内消費による経済波及効果は、**約4,700万円**となります。
- ◆ワーケーションの実施によって長崎県に**64人**が移住すると仮定すると、移住者による年間の県内消費による経済波及効果は、**約1億5,000万円**となります。

（単位：千円）

		和歌山県	徳島県	長崎県
生産 誘発額	直接効果	70,372	37,371	116,671
	第一次 波及効果	18,577	9,577	32,368
合計		88,949	46,948	149,039

結果(二拠点居住(兼業・副業)による経済波及効果)

◆アンケート結果の中で、訪問先への貢献方法について「将来的に会社の移転先として検討している」と回答した人が2%であったことから、このうち**半数(1%)の人が訪問先との二拠点居住(兼業・副業)を行うと仮定した場合**の経済波及効果についても試算を行った(一人当たりの消費金額は移住者の1/2として試算)。

◆ワーケーションの実施によって和歌山県で**50人**が二拠点居住を行うと仮定すると、年間の県内消費による経済波及効果は、**約4,400万円**となります。

◆ワーケーションの実施によって徳島県で**22人**が二拠点居住を行うと仮定すると、年間の県内消費による経済波及効果は、**約2,300万円**となります。

◆ワーケーションの実施によって長崎県で**64人**が二拠点居住を行うと仮定すると、年間の県内消費による経済波及効果は、**約7,500万円**となります。

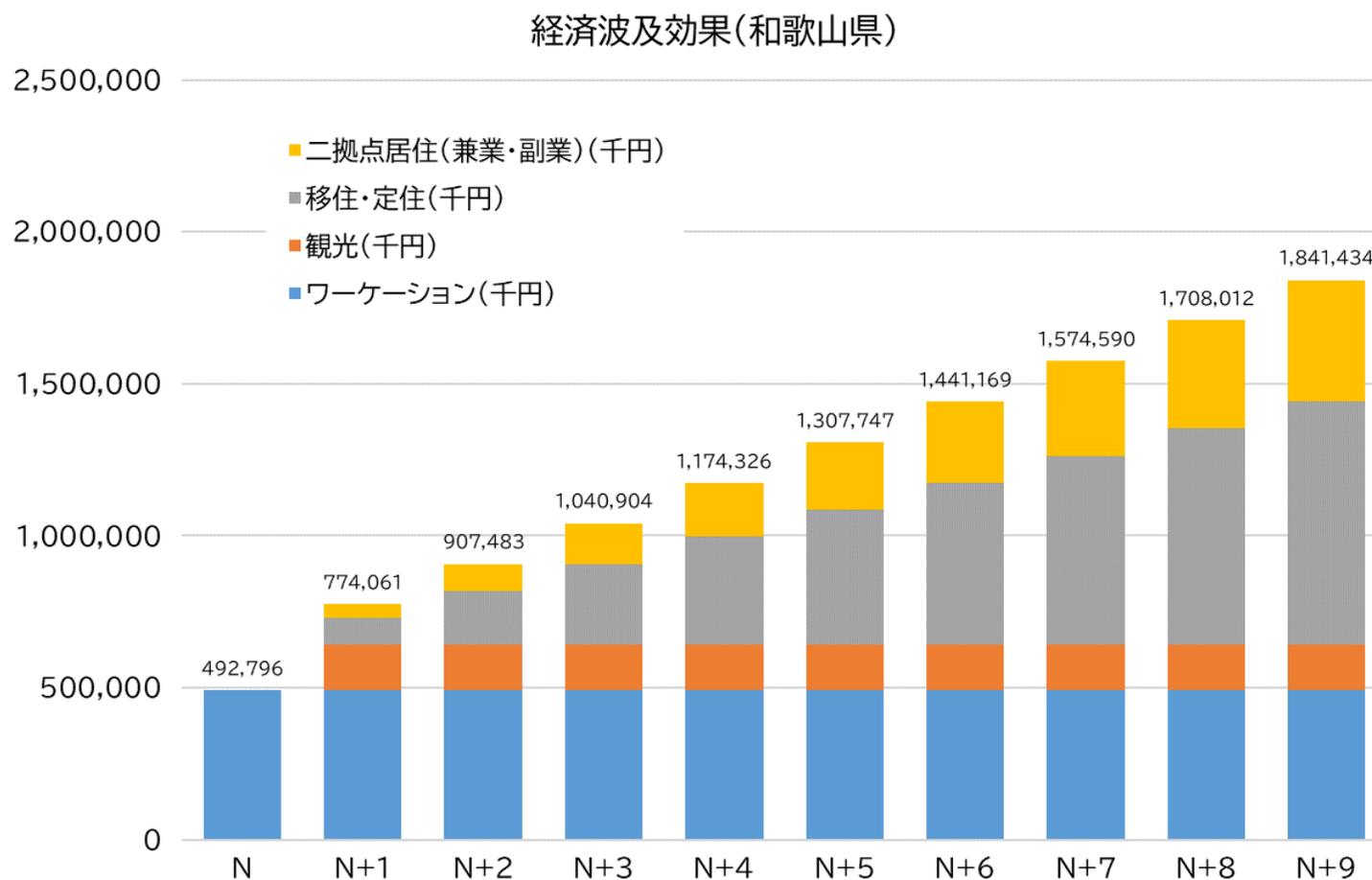
(単位:千円)

		和歌山県	徳島県	長崎県
生産 誘発額	直接効果	35,186	18,685	58,335
	第一次 波及効果	9,287	4,789	16,184
合計		44,473	23,474	74,519

結果(10年間で生じる経済波及効果:和歌山県)

◆10年間同様の条件でワーケーションを実施した場合について、直接的な効果に加え、「再訪(観光)」「移住定住」「二拠点居住(兼業・副業)」による効果を加算して試算を行った。

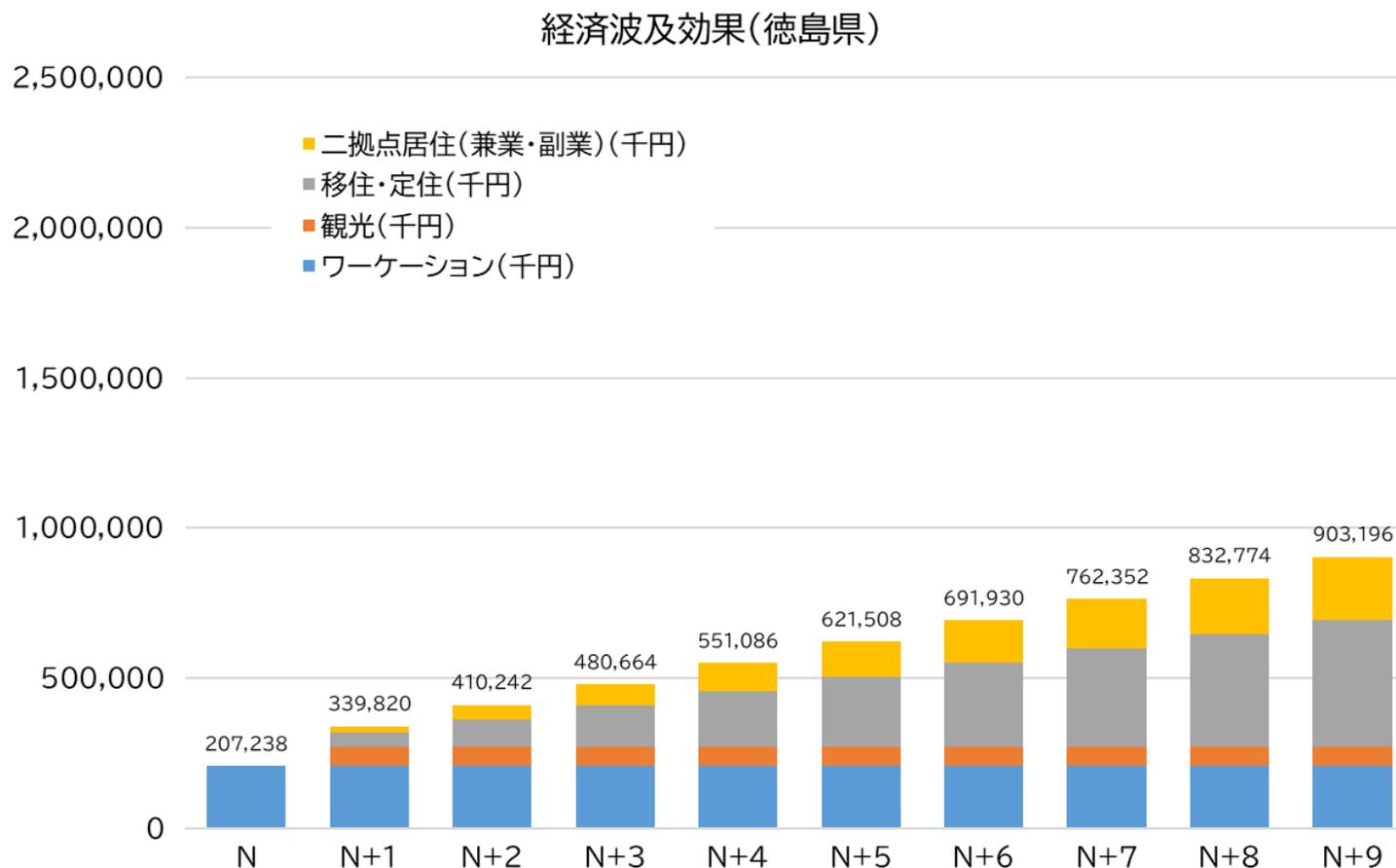
◆和歌山県では、10年間で生じる県内消費による経済波及効果は、**約123億円**となります。



結果(10年間で生じる経済波及効果:徳島県)

◆10年間同様の条件でワーケーションを実施した場合について、直接的な効果に加え、「再訪(観光)」「移住定住」「二拠点居住(兼業・副業)」による効果を加算して試算を行った。

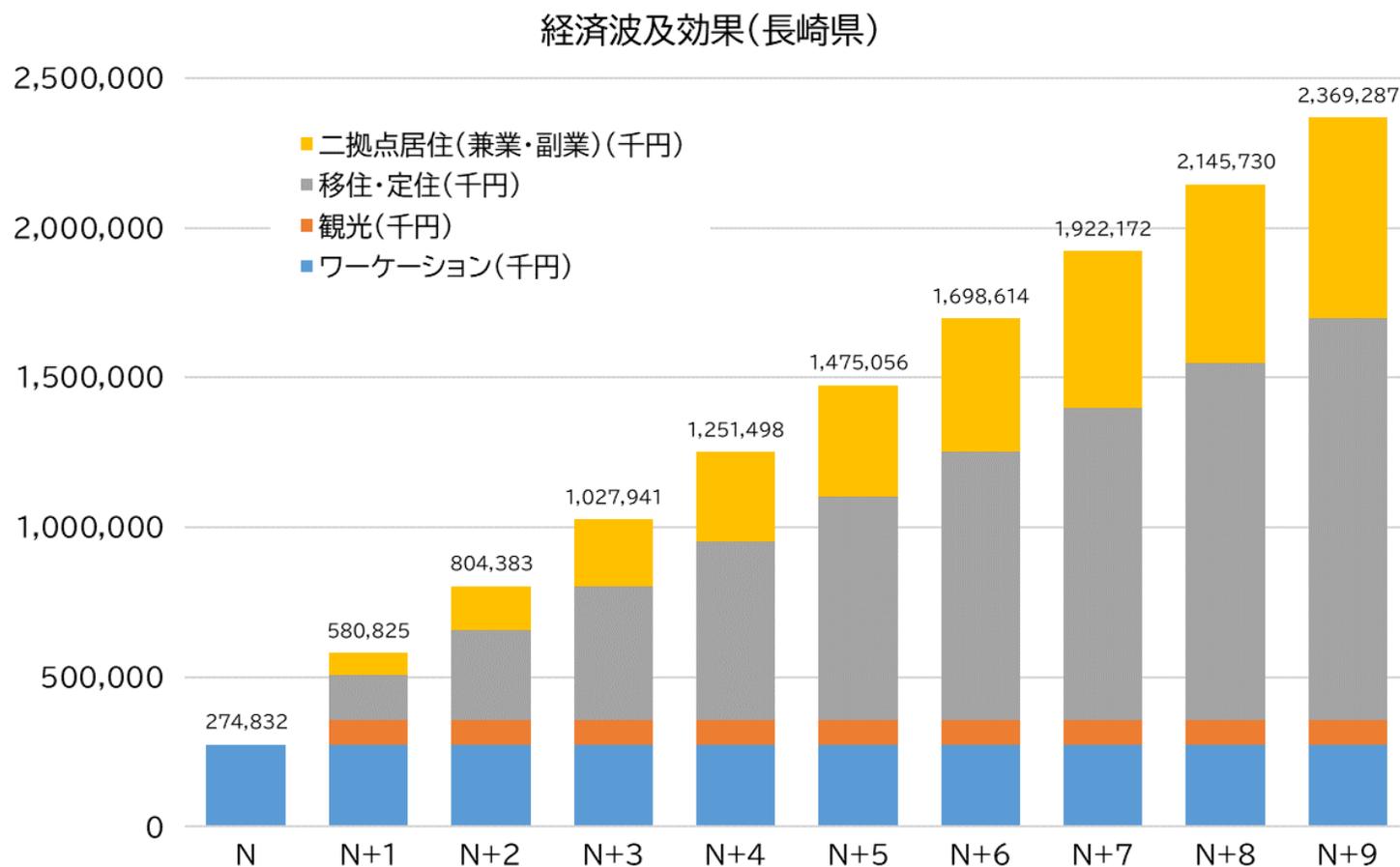
◆徳島県では、10年間で生じる県内消費による経済波及効果は、**約58億円**となります。



結果(10年間で生じる経済波及効果:長崎県)

◆10年間同様の条件でワーケーションを実施した場合について、直接的な効果に加え、「再訪(観光)」「移住定住」「二拠点居住(兼業・副業)」による効果を加算して試算を行った。

◆長崎県では、10年間で生じる県内消費による経済波及効果は、**約136億円**となります。



| ②効果測定の実施方法

効果測定の実施方法

当該都道府県の「平成27年(2015年)産業連関表(107部門表)」を用いて、ワーケーション参加者の県内消費がもたらす経済波及効果を分析しました。

【分析手順】

- (a) 新規需要について、参加者による消費額の費目を下記のとおり想定
- (b) 産業連関表107部門との対応を整理

費目	種別	統合中分類(107部門)
宿泊費	旅館・ホテル代	671 宿泊業
飲食・食事代	レストラン等での食事、飲酒など	672 飲食サービス
交通費	鉄道	571 鉄道輸送
	バス・タクシー	572 道路輸送(自家輸送を除く。)
	船舶	574 水運
	航空機	575 航空輸送
	レンタカー	661 物品賃貸サービス
	駐車場代	578 運輸附帯サービス
	自動車燃料	211 石油製品
土産・買い物代	食料品(菓子類・お弁当・農水産加工品など)	111 食料品
	酒・飲料	112 飲料
	衣料品	152 衣服・その他の繊維既製品
	たばこ	114 たばこ
入場料・施設利用料	陶磁器	253 陶磁器
	娯楽サービス(遊園地、映画館、ゴルフ、マリンスポーツなど)	674 娯楽サービス
	教育施設・プログラム(博物館・動物園・水族館・農業体験など)	631 教育
	温泉施設・美容施設(温泉、銭湯、エステ、理髪店、美容院、クリーニングなど)	673 洗濯・理容・美容・浴場業

2. 効果測定の実施方法

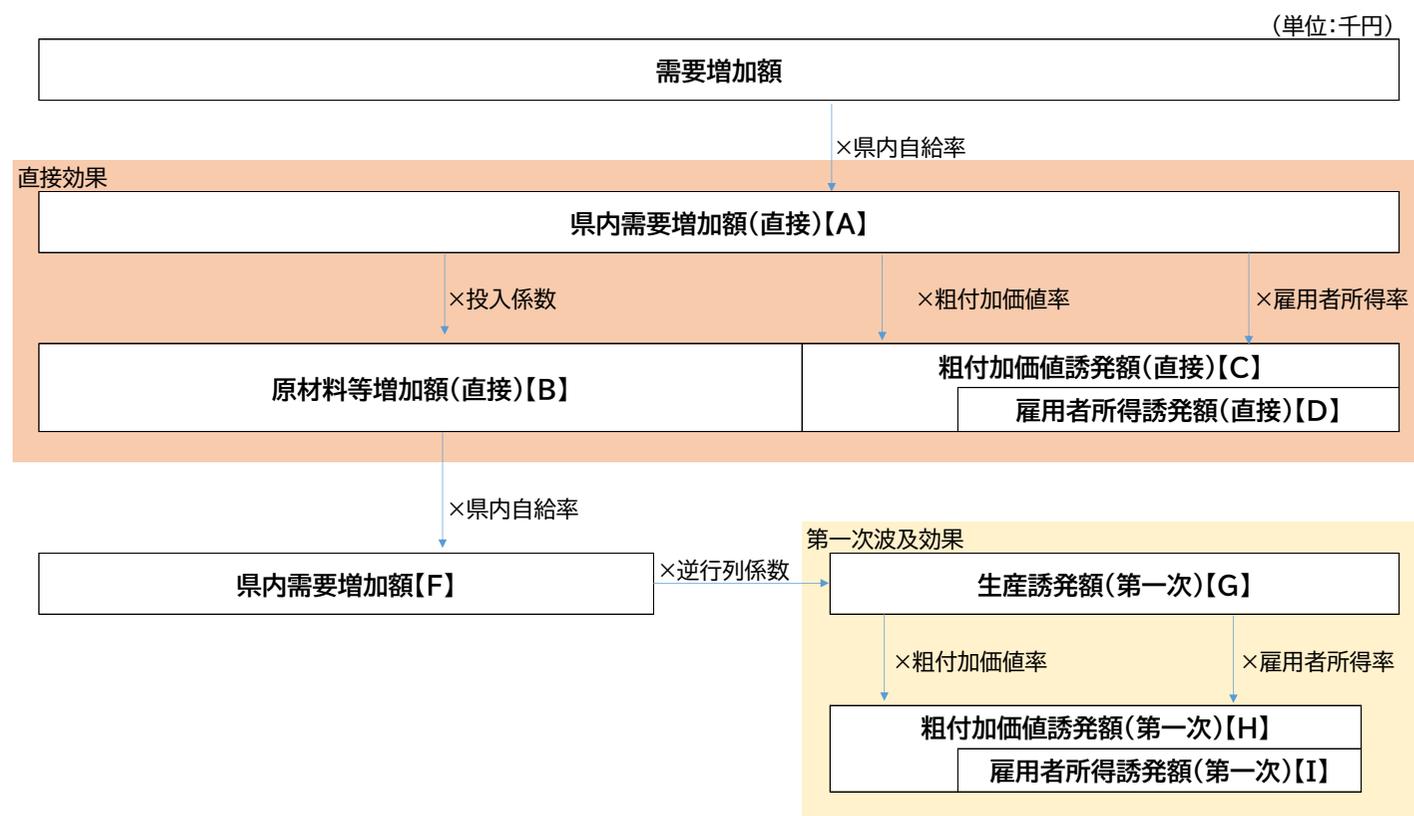
(c) ワークーション参加者の領収書の回収による消費額の把握

(d) ワークーション参加者の消費額すべてが県内産業への需要であると考えられる部門(商業、運輸・郵便、対個人サービス)については県内自給率を100%に調整

			自給率	
			調整前	調整後
商業	511	商業	0.58878	1
運輸・郵便	571	鉄道輸送	0.357672	1
	572	道路輸送(自家輸送を除く。)	0.587582	1
	574	水運	0.453143	1
	575	航空輸送	0.026997	1
	576	貨物利用運送	0.210189	1
	577	倉庫	0.599362	1
	578	運輸附帯サービス	0.660894	1
	579	郵便・信書便	0.830234	1
対個人サービス	671	宿泊業	0.081604	1
	672	飲食サービス	0.77388	1
	673	洗濯・理容・美容・浴場業	0.866183	1
	674	娯楽サービス	0.838819	1
	679	その他の対個人サービス	0.9959	1

効果測定の実施方法

- (e) ワーケーション参加者の領収書の回収による消費額の把握
- (f) 下図の計算フローにもとづき、経済波及効果※₁を算出※₂



直接効果

新たに発生した消費によって、その需要を満たす生産が誘発されたもののうち、域内に誘発された生産額のこと

第一次波及効果

直接効果による生産から波及する原材料等の購入によって誘発される生産額のこと

※₁ 経済波及効果の測定は第一次波及効果までとする

※₂ (c)で把握したワーケーション参加者の県内消費額をもとに一人当たりの県内消費額を算出し、**年間に想定されるワーケーション参加者数(観光庁・総務省資料をもとに算出)**を乗じて**需要増加額を試算**

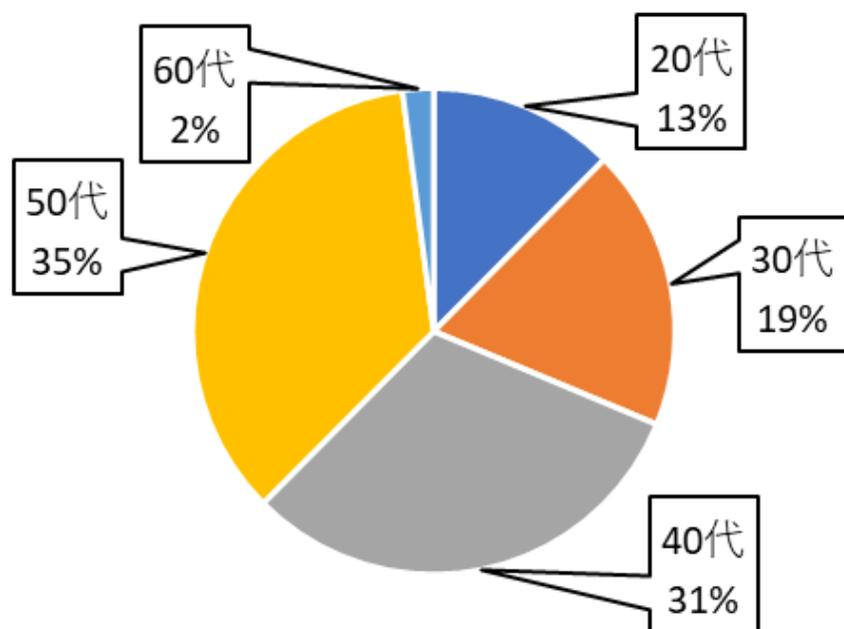


| (3) 回答者プロフィール

回答者プロフィール

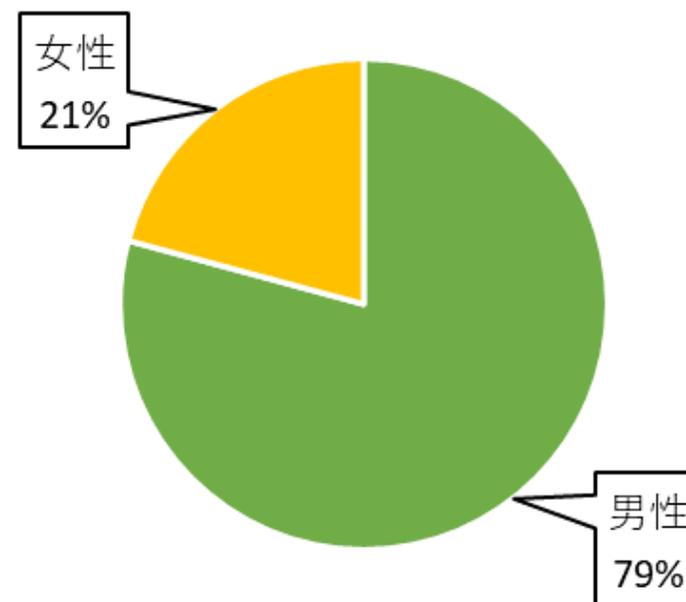
- ◆ 年齢は、50代が最も多く、次いで40代、30代となっていた。
- ◆ 性別は、男性が約8割、女性が約2割となっていた。

年齢



(n=48)

性別

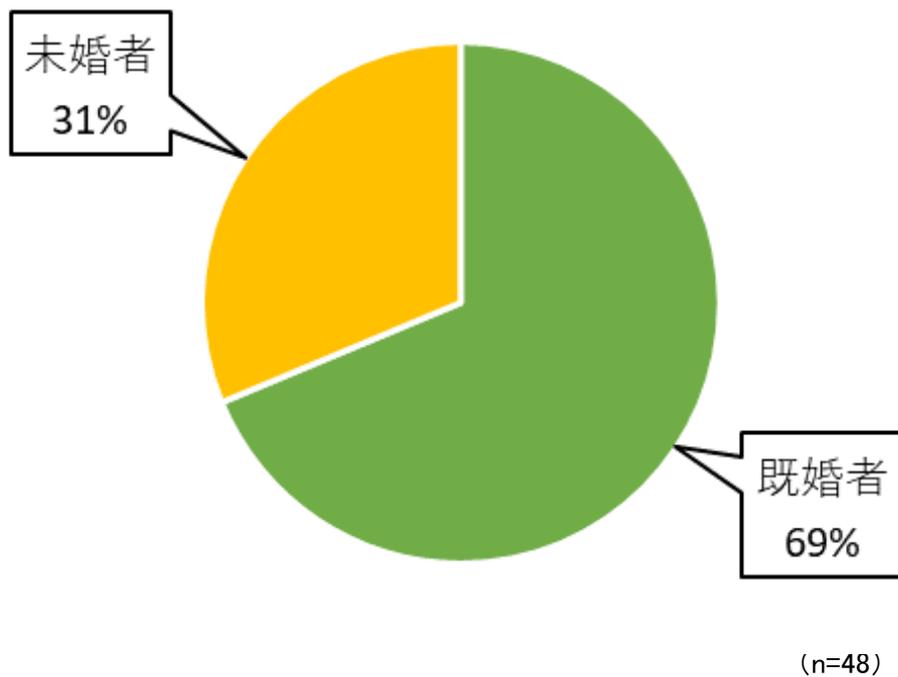


(n=48)

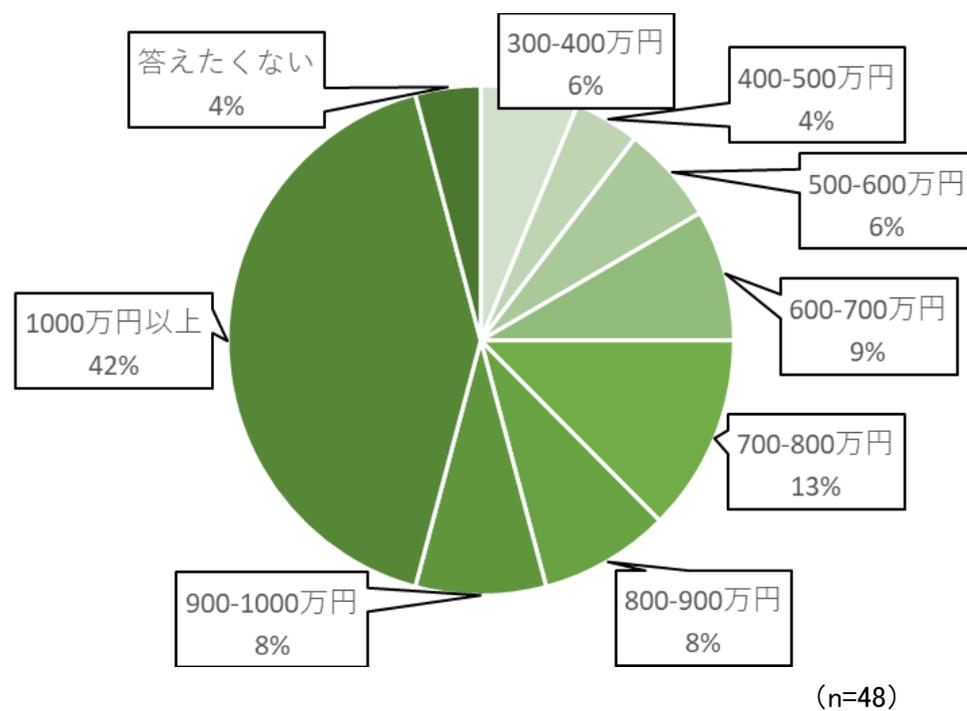
回答者プロフィール

- ◆ 婚姻は、既婚者が約7割、未婚者が約3割となっていた。
- ◆ 年収は、1,000万円以上が最も多く、次いで700-800万円、600-700万円となっていた。

婚姻



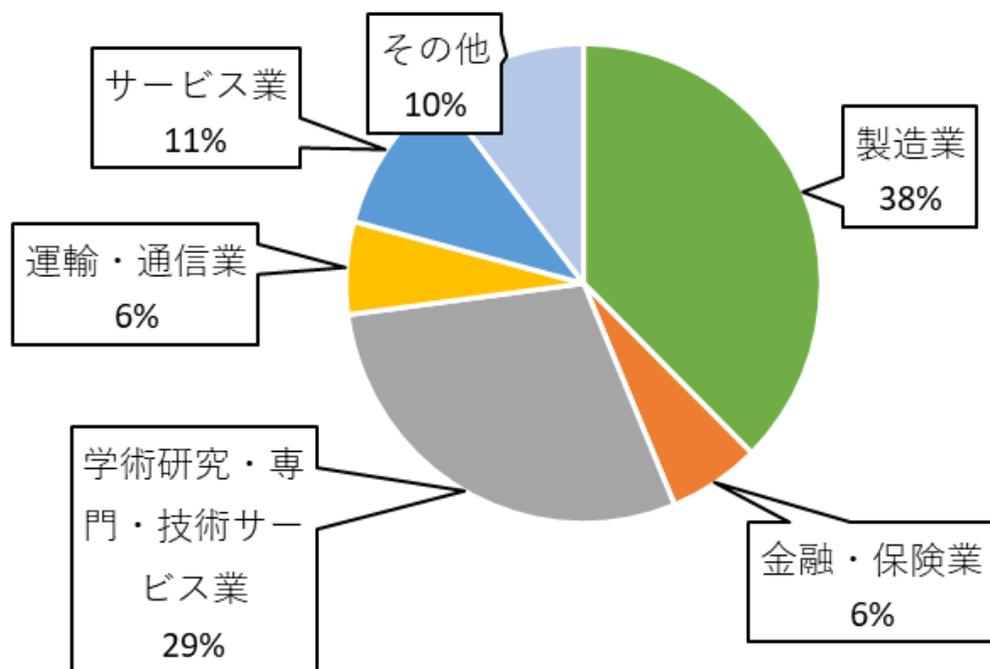
年収



回答者プロフィール

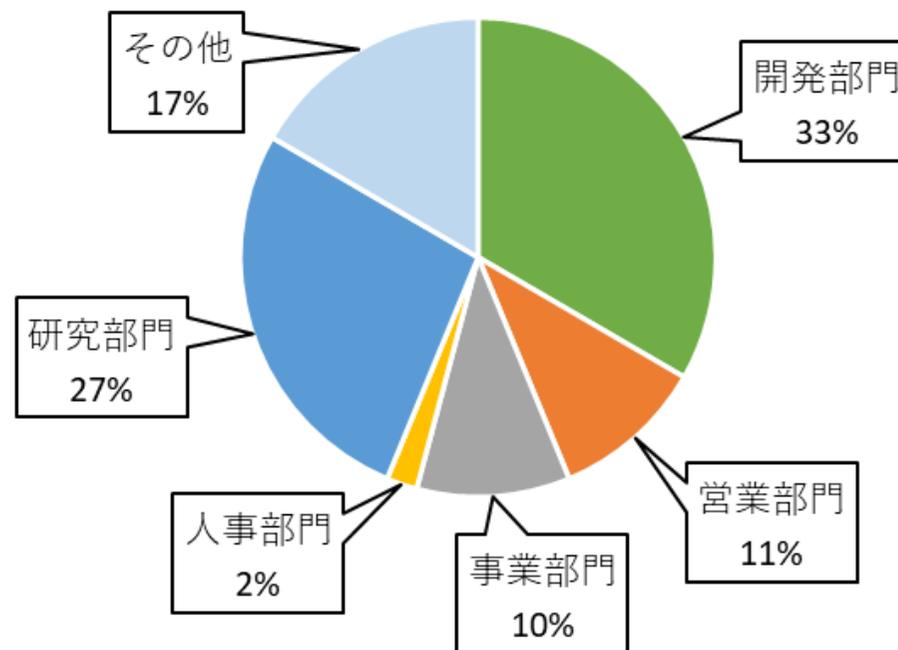
- ◆ 業種は、製造業、学術研究・専門・技術サービス業が最も多く、次いでサービス業となっていた。
- ◆ 職種は、開発部門が最も多く、次いで研究部門、営業部門となっていた。

業種



(n=48)

職種

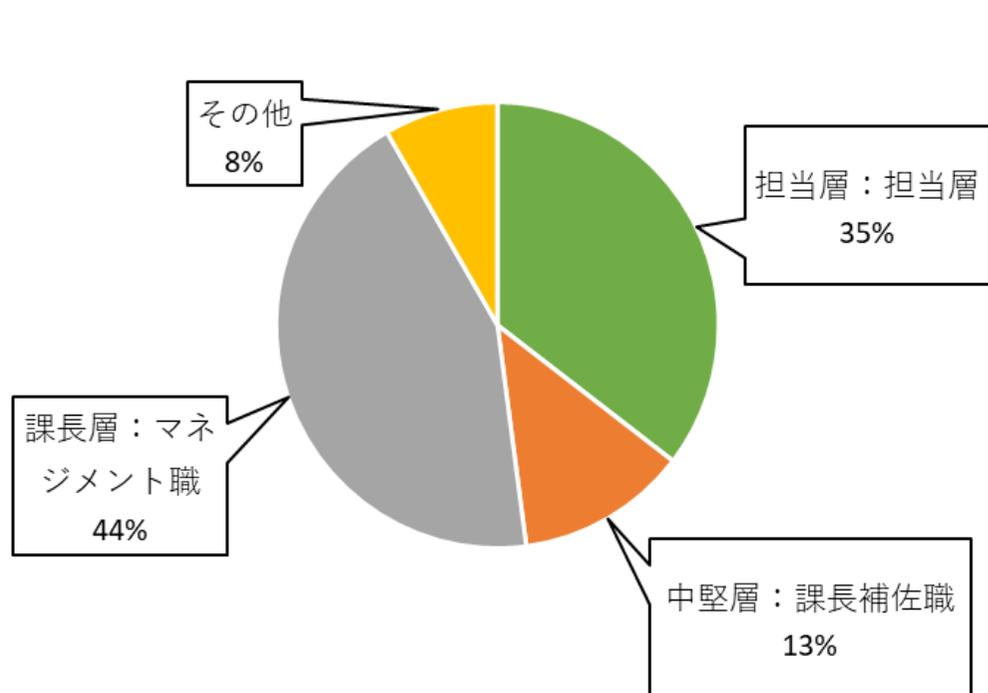


(n=48)

回答者プロフィール

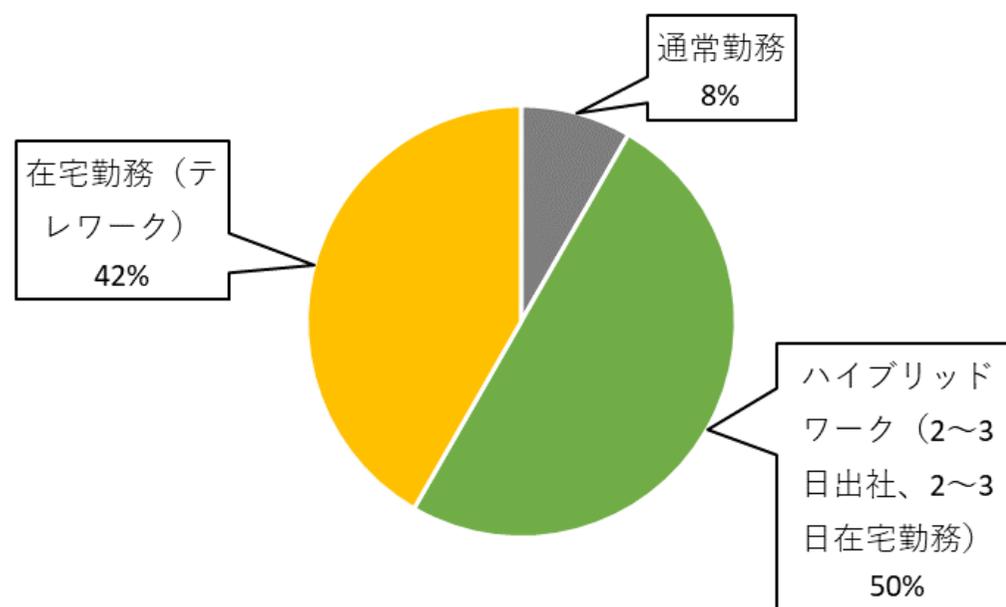
- ◆ 役職は、マネジメント層が最も多く、次いで担当層、課長補佐層となっていた。
- ◆ 勤務形態は、ハイブリッドワークが最も多く、次いで在宅勤務(テレワーク)、通常勤務となっていた。

| 役職



(n=48)

| 勤務形態



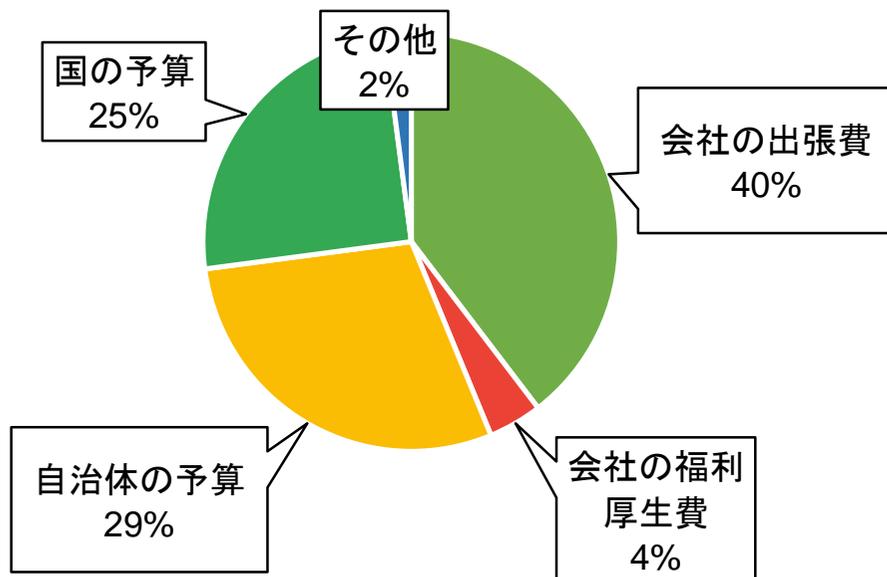
(n=48)

| (4) ワークーション全般事項

ワーケーション全般事項

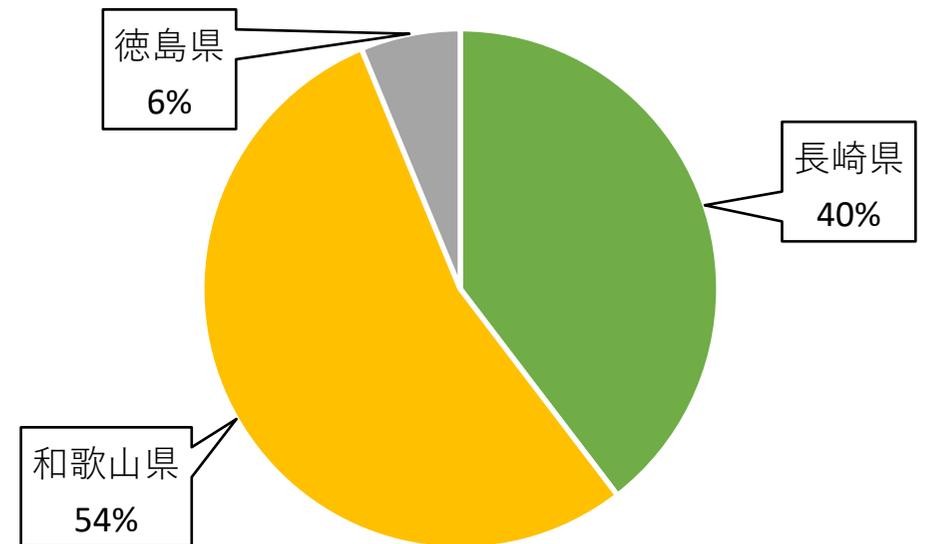
- ◆ 参加費は、会社の出張費が最も多く、次いで自治体の予算、国の予算となっていた。
- ◆ 参加した地域は、和歌山県が最も多く、次いで長崎県、徳島県となっていた。

参加費



(n=48)

参加した地域

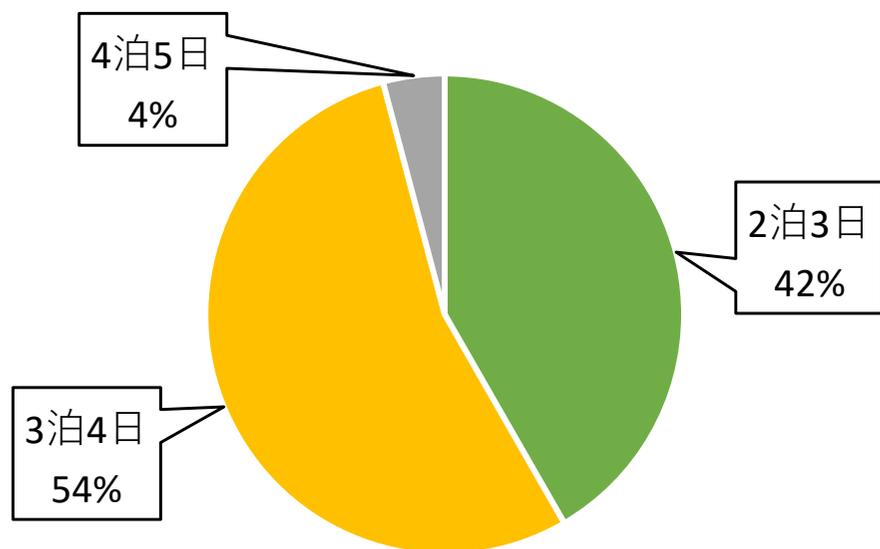


(n=48)

ワーケーション全般事項

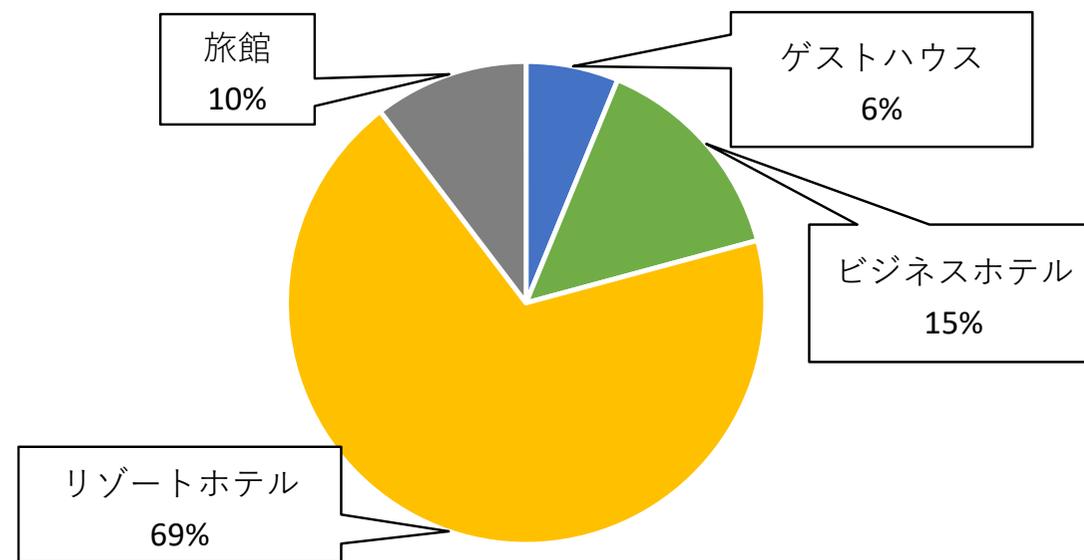
- ◆ 宿泊日数は、3泊4日が最も多く、次いで2泊3日、4泊5日となっていた。
- ◆ 宿泊施設は、リゾートホテルが最も多く、次いでビジネスホテル、旅館となっていた。

| 宿泊日数



(n=48)

| 宿泊施設

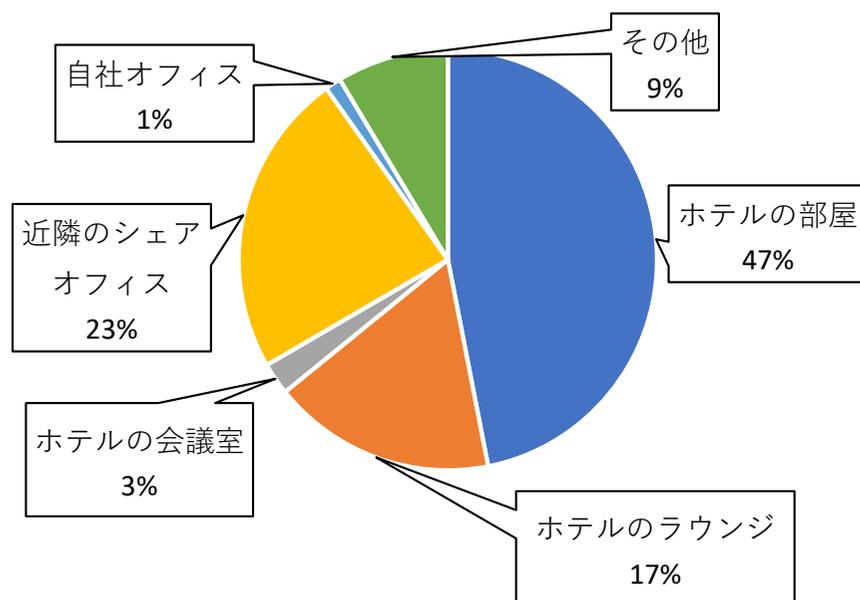


(n=48)

ワーケーション全般事項

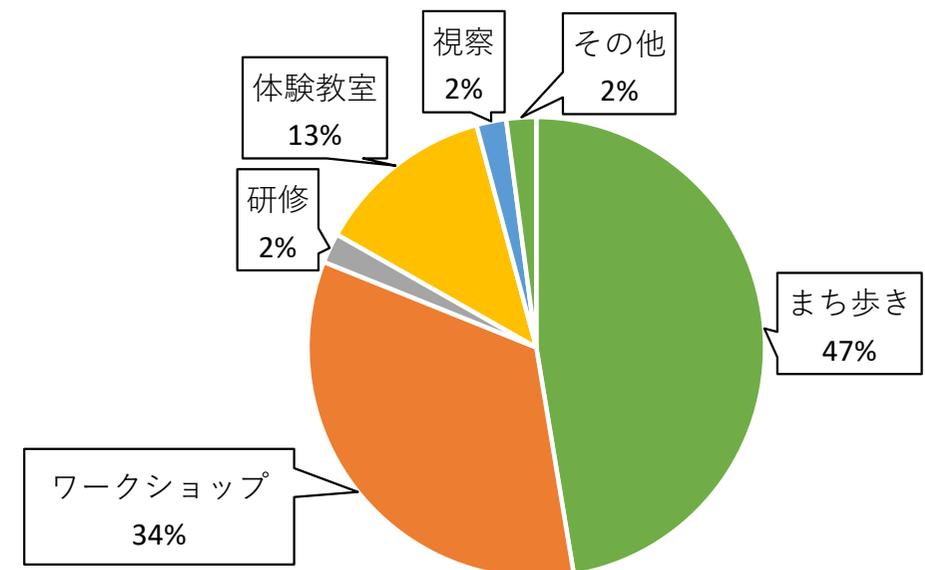
- ◆ 利用したワークスペースは、ホテルの部屋が最も多く、次いでホテルのラウンジ、近隣のサテライトオフィスとなっていた。
- ◆ 参加したプログラムは、まち歩きが最も多く、次いでワークショップ、体験教室となっていた。

利用したワークスペース



(n=48)

参加したプログラム



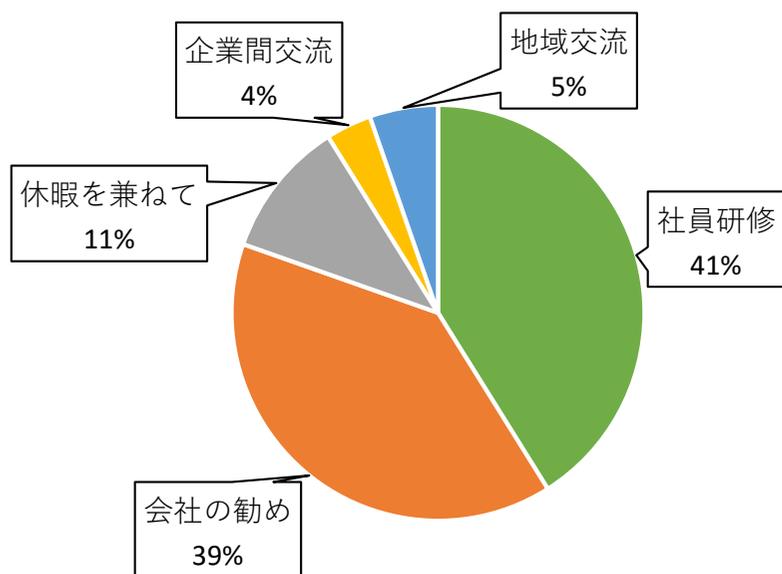
(n=48)

ワーケーション全般事項

ワーケーション参加の目的・訪問場所選定理由・満足度・将来の貢献可能性について伺いました。

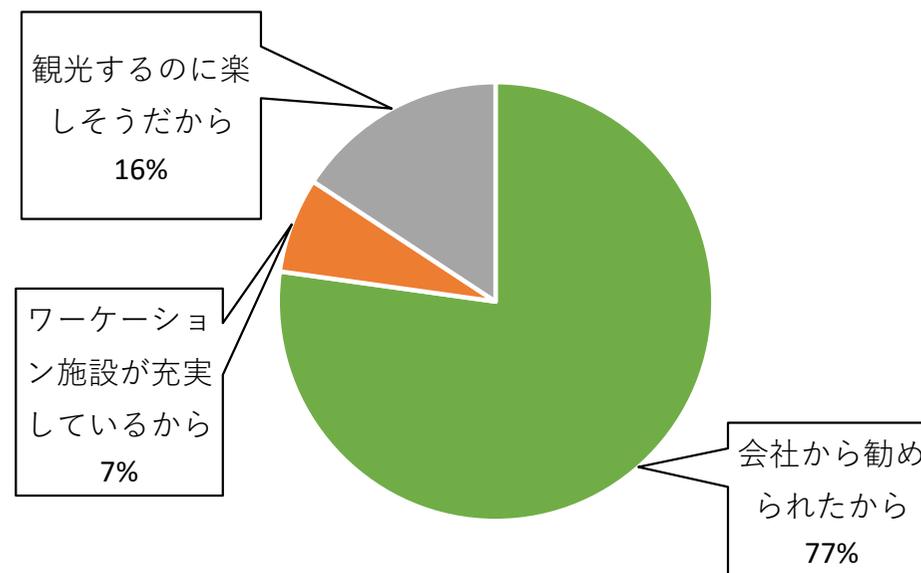
- ◆ 訪問目的は、社員研修が最も多く、次いで会社の勧め、休暇を兼ねてとなっていた。
- ◆ 訪問先選定理由は、会社から進められたからが最も多く、次いで観光するのを楽しそうだから、ワーケーション施設が充実しているからとなっていた。

Q 今回の訪問目的を教えてください。



(n=48)

Q 今回の訪問先選定理由はなんですか？



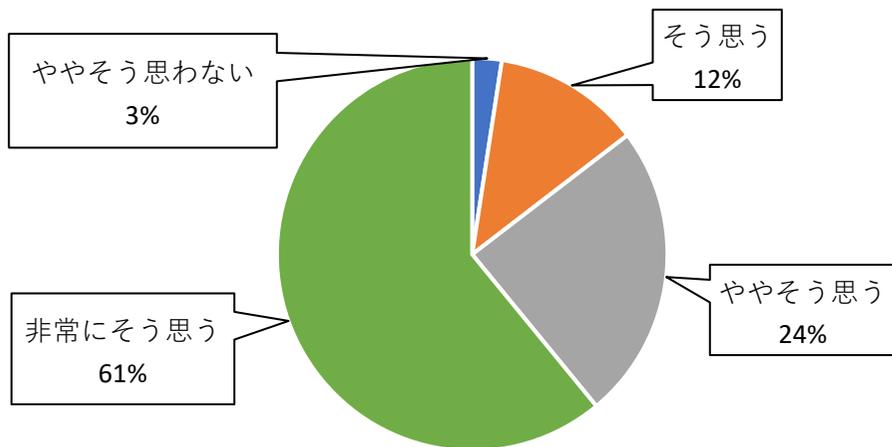
(n=48)

ワーケーション全般事項

ワーケーション参加の目的・訪問場所選定理由・満足度・将来の貢献可能性について伺いました。

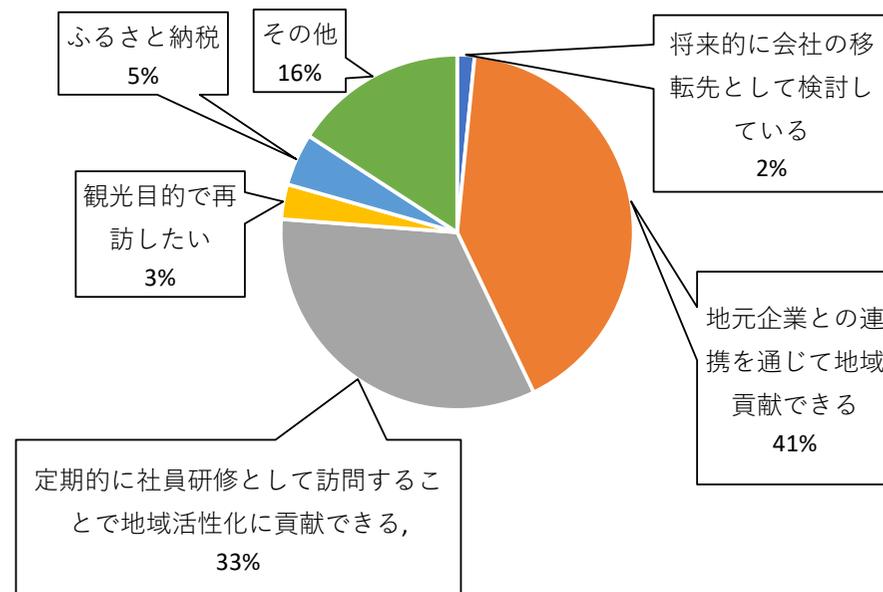
- ◆ 訪問先満足度は、非常にそう思うが半数以上を占めており高い傾向にある。
- ◆ 訪問先に対する今後の貢献可能性は、「地元企業との連携」「社員研修」が大半を占めている。少数ではあるが、「ふるさと納税」「観光目的での再訪」「会社の移転先」等の回答にも着目したい。

Q 訪問先にまた訪れたいと思いますか？



(n=48)

Q 訪問先に対して今後どのような貢献ができると思いますか？

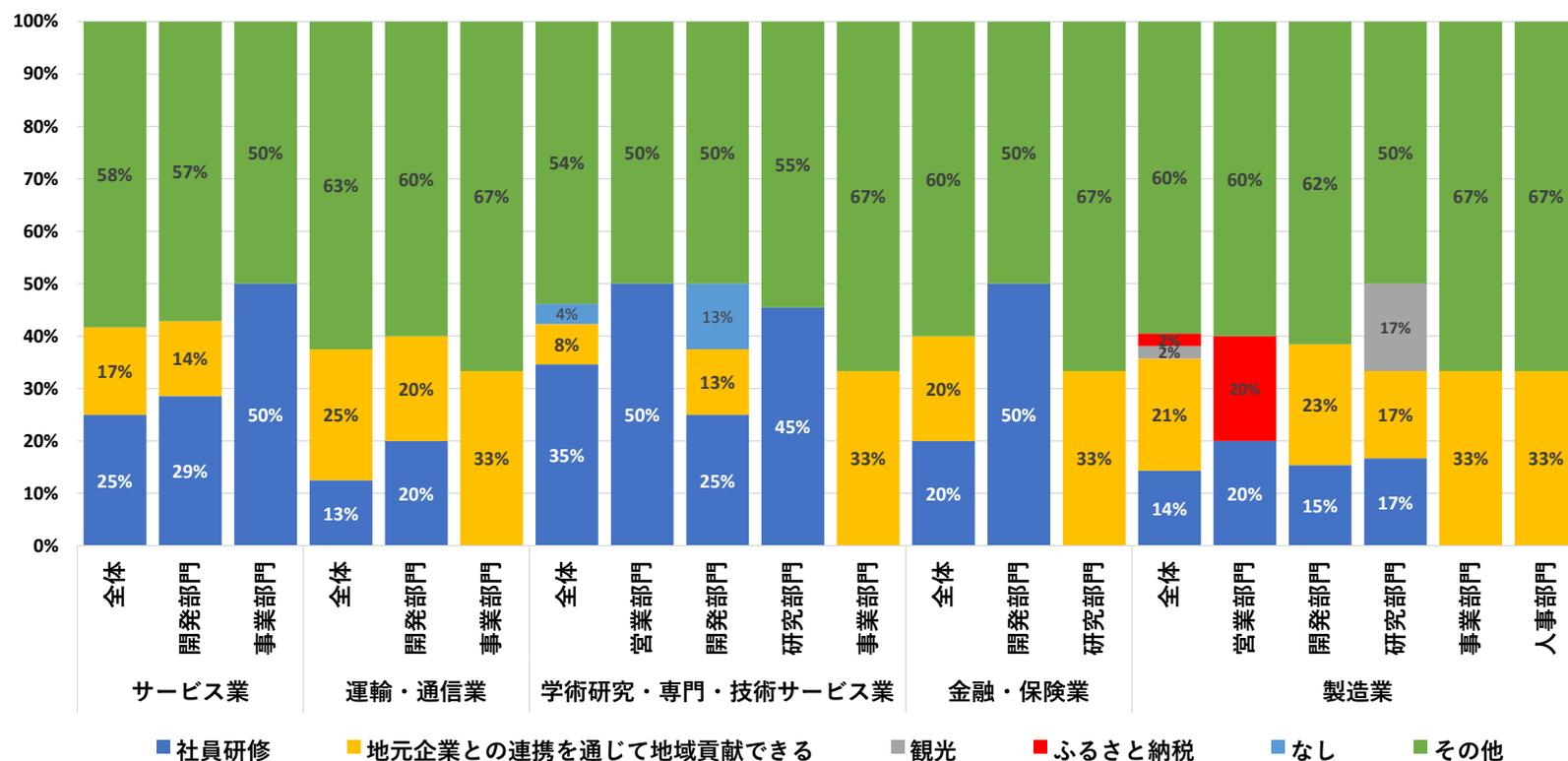


(n=48)

ワーケーション全般事項：訪問先貢献可能性（業種・職種別）

- ◆ 訪問先貢献可能性について、「地元企業との連携を通じて地域貢献できる」と回答した人の割合を見ると、運輸・通信業、学術研究・専門・技術サービス業、製造業の**事業部門**および**人事部門**で最も多く、次いで製造業の**開発部門**、**研究部門**となっていた。
- ◆ 今後、こうした部門へのヒアリングを行うことで、地方での新規事業展開の可能性について掘り下げる必要がある。

業種・職種別



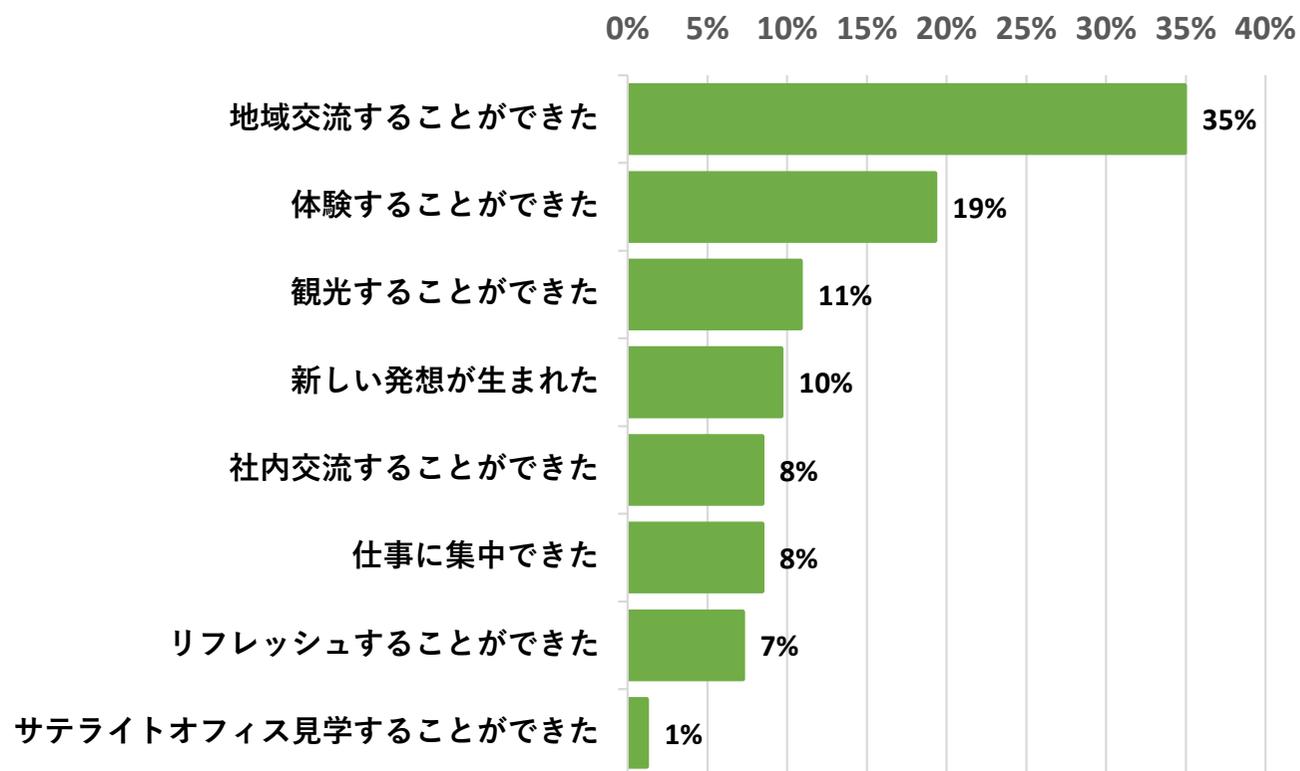
(n=48)

ワーケーション全般事項

- ◆ 参加して良かった点は、「地域交流することができた」が最も多く、次いで「体験することができた」、「観光することができた」となっていた。

ワーケーションに参加して良かった点、改善点について伺いました。

Q 今回ワーケーションに参加して良かった点を教えてください。(自由回答・複数回答)



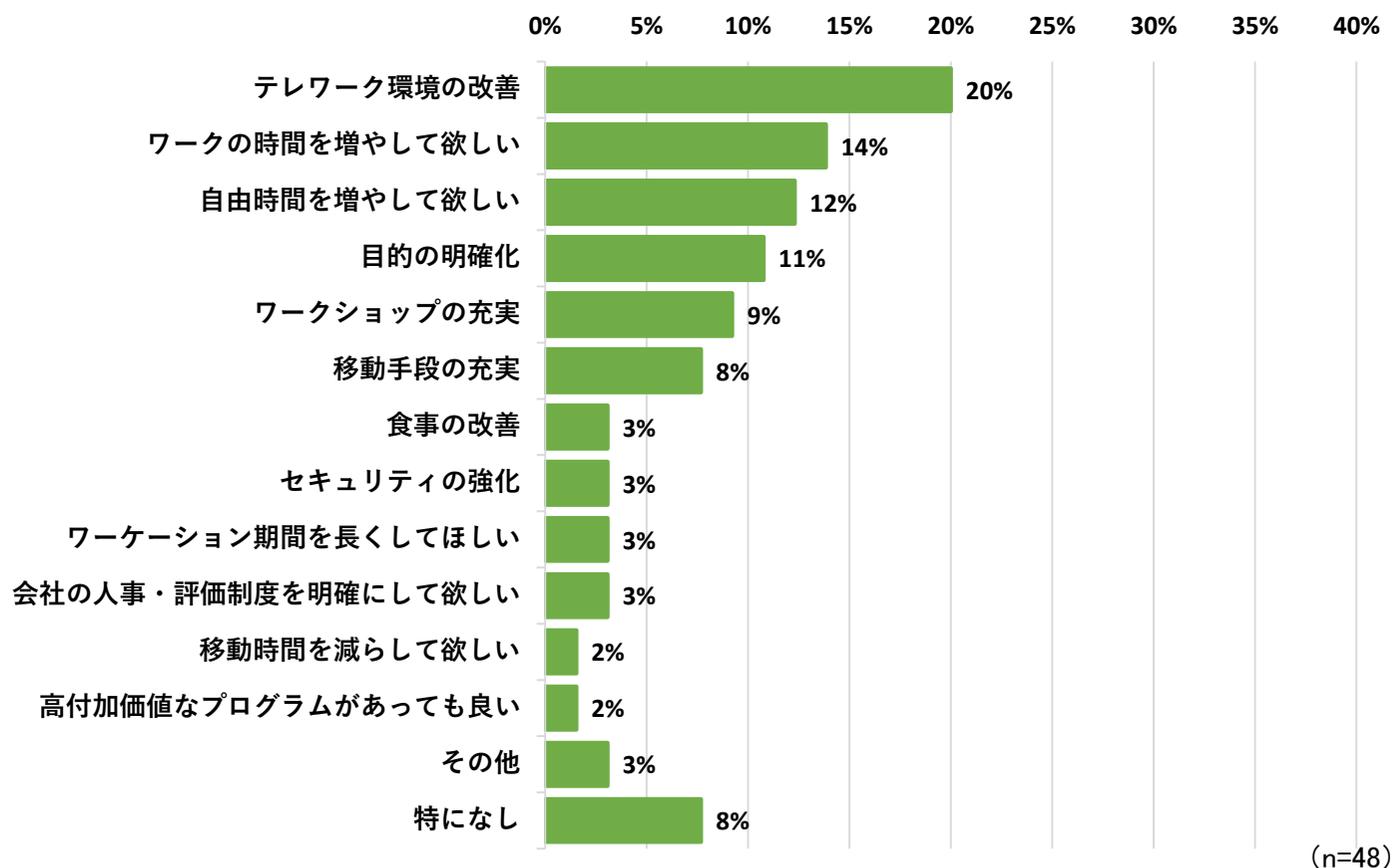
(n=48)

ワーケーション全般事項

◆ 参加して改善すべき点は、「テレワーク環境の改善」が最も多く、次いで「ワークの時間を増やしてほしい」、「自由時間を増やしてほしい」となっていた。

ワーケーションに参加して良かった点、改善点について伺いました。

Q 今回ワーケーションに参加して改善すべき点を教えてください。(自由回答・複数回答)





| <参考資料>

実証実験プログラム一覧(SS社)

東京内SS社に在職する役職員3名を対象に、下記スケジュールに沿ってワーケーションを実施しました。

日付	時間	日程
12月5日(月)	10:15 10:15~12:00 12:00~13:00 13:00~15:00 15:00~18:00	徳島空港 到着 (移動) 昼食 三好市地方創生事業:リモートワーク対応住宅(人材循環促進住宅) 視察 株式会社 あしたのチーム(旧政海旅館)マチトソラ 視察 (株)ジェニオ サテライトオフィス「ABOUT 344 LAB」 視察 (株)ビヨンド「三好市サテライトオフィス」 視察 リモートワーク@三好市地域交流拠点施設 真鍋屋(愛称)-MINDE-
12月6日(火)	9:00~10:00 10:00~12:00 12:00~13:00 13:00~17:00 17:00~18:00	リモートワーク@Heso Naya 集中討議 昼食 リモートワーク@Heso Naya 集中討議
12月7日(水)	9:00~10:15 10:15~12:00 12:00~13:00 13:10~15:00 19:40	リモートワーク@三好市地域交流拠点施設 真鍋屋(愛称)-MINDE- (移動) 昼食 意見交換@高松支店 高松空港 出発

実証実験プログラム一覧 (SI社)

東京都内SI社に在職する役職員10名を対象に、下記スケジュールに沿ってワーケーションを実施しました。

日付	時間	日程
1月10日(火)	9:15 10:00~10:20 11:00~15:45 16:15~17:30 17:30~	南紀白浜空港 到着 道の駅すさみ オリエンテーション・ディスカッション(キーパーソン①)・昼食・テレワーク テレワーク@ホテル&リゾート和歌山串本 夕食
1月11日(水)	7:00~9:00 9:00~11:00 12:00~13:30 13:35~16:00 16:00~18:30 19:00~20:30	朝食 テレワーク@ホテル&リゾート和歌山串本 昼食@キッチンニコリ 地域の活動のお話・ディスカッション(キーパーソン②)・青空ワークショップ 温泉入浴@ホテル浦島 地域の方等を交えた夕食交流会@Wine Kumano
1月12日(木)	7:30~9:00 9:30~10:30 11:00~12:00 14:00~15:00 15:00~17:30 17:30	マグロ競りツアー&朝食 串本町 & ロケット紹介・地域活動のお話 & ディスカッション(キーパーソン③) @古座旧分庁舎 昼食@モノリス 施設見学・総括@Office Cloud 9 ぐるっと白浜 ※希望者はOffice Cloud 9にてテレワーク可能 南紀白浜空港 出発

実証実験プログラム一覧（R社）

東京都内R社に在職する役職員を対象に、下記スケジュールに沿ってワーケーションを実施しました。

日程：3泊4日で3回実施。

A：12/12（月）～12/15（木）5名 B：12/19（月）～12/22（木）5名 C：1/16（月）～1/19（木）6名

基本プログラム

日数	1日目	2日目	3日目	4日目
午前	オリエンテーション 水垢離体験、座禅体験	朝の散歩（任意） 個人リモートワーク	朝の散歩（任意） 個人リモートワーク	朝の散歩（任意） ふりかえり
昼食	地元の食材を使った お弁当	フリー	フリー	フリー
午後	地域の方との 意見交換会	自然体験 森でのフィールドワーク	自然体験 熊野古道ウォーク	地域DX体験ツアー （任意） ※参加せずリモートワークも可
夕食	地域の方との交流会	フリー	懇親会（任意）	
宿泊	白浜町or田辺市 のホテル	白浜町or田辺市 のホテル	白浜町or田辺市 のホテル	

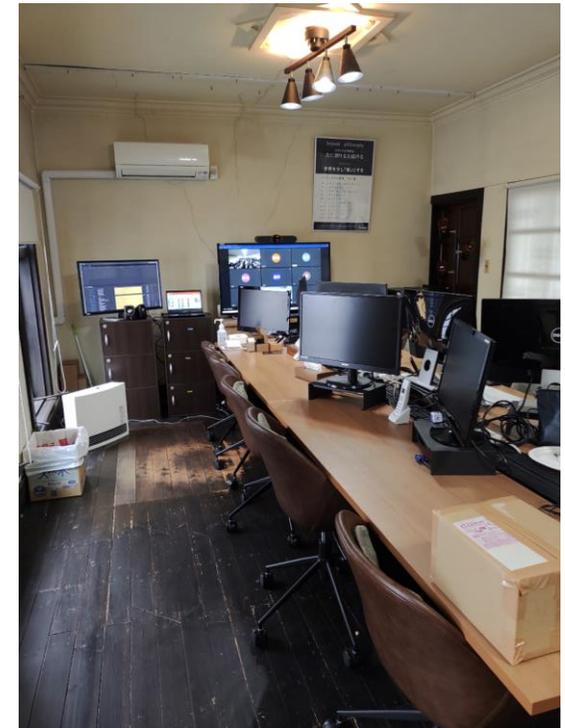
実施状況(SS社)



(写真)集中講義の状況(Heso Noya)



(写真)三好市地方創生事業
リモートワーク対応住宅(人材循環促進住宅)
内観(上)、外観(右上)



(写真)(株)ビヨンド「三好市サテライトオフィス」



(写真)三好市地域交流拠点施設 真鍋屋(愛称)-MINDE-



(写真)(株)ジェニオ
サテライトオフィス「ABOUT 344 LAB」

実施状況 (SI社)



南紀串本リゾート大島インタビュー



ゲストハウス
「マグロビルジング」外観



「Why Kumano Wine Bar」
内覧会



意見交換会@串本町役場



昼食会



Eバイク置き場視察



Why Kumano内覧会



テレワーク@グランピング



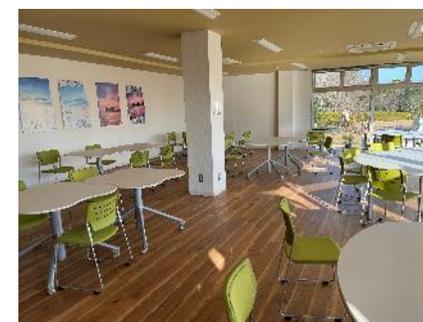
意見交換会



ゲストハウス「Why Kumano」
内覧会



交流会@Why Kumano Wine Bar



白浜第二オフィスビル内覧会

実施状況(R社)



森の散策



自然体験



テレワーク



座禅体験



熊野古道ウォーキング



地域の方との意見交換会

WFun測定方法

※本実証実験では、SPQと合わせてWFunを用いて生産性を測定している。

生産性の測定(7項目)

参加者の方の生産性を測定するために、SOMPOヘルスサポート社のWFun(Work Functioning Impairment Scale)を用いてアンケート調査を実施しました。WFunは、産業医科大学で開発された、健康問題による労働機能障害の程度を測定する調査票です。「健康経営ガイドブック(経済産業省)および「健康経営度調査票」において推奨されているプレゼンティーズム※測定ツールです。

表 WFun質問・回答例

質問例	ほぼ毎日ある	週に2日以上	週に1日以上	月に1日以上	まったくない
ていねいに仕事をする ことができなかった	○	○	○	○	○

表 WFun得点と解釈の考え方

WFun得点	参考割合	解釈
7点～13点	50～60%	問題なし。
14点～20点	20～30%	軽度の労働機能障害。表面的には問題になっていないが、詳細に面談などすると、健康問題を有している可能性がある。
21点～27点	10～15%	中等度の労働機能障害。何らかの介入を要する可能性が高い。
28点～35点	2～8%	高度の労働機能障害を経験している。臨床的介入の必要性が高い。

■得点の考え方

ほぼ毎日ある:5点
週に2日以上:4点
週に1日以上:3点
月に1日以上:2点
まったくない:1点

上記の合計点評価する。
(得点範囲7点～35点)

(出典)SOMPOヘルスサポート社提供

※何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し、なんらかの体調不良があるまま働いている状態

WFun測定結果

■ ワークーション実施が生産性に与える効果

ワークーション実施前後のWFun得点を見ると、平均値に変化はありませんでした。WFunは、14～20点の範囲にある場合、「軽度の労働機能障害。表面的には問題になっていないが、詳細に面談などすると、健康問題を有している可能性がある」とされます。この範囲で、**生産性に変化なしと解釈することができます。**

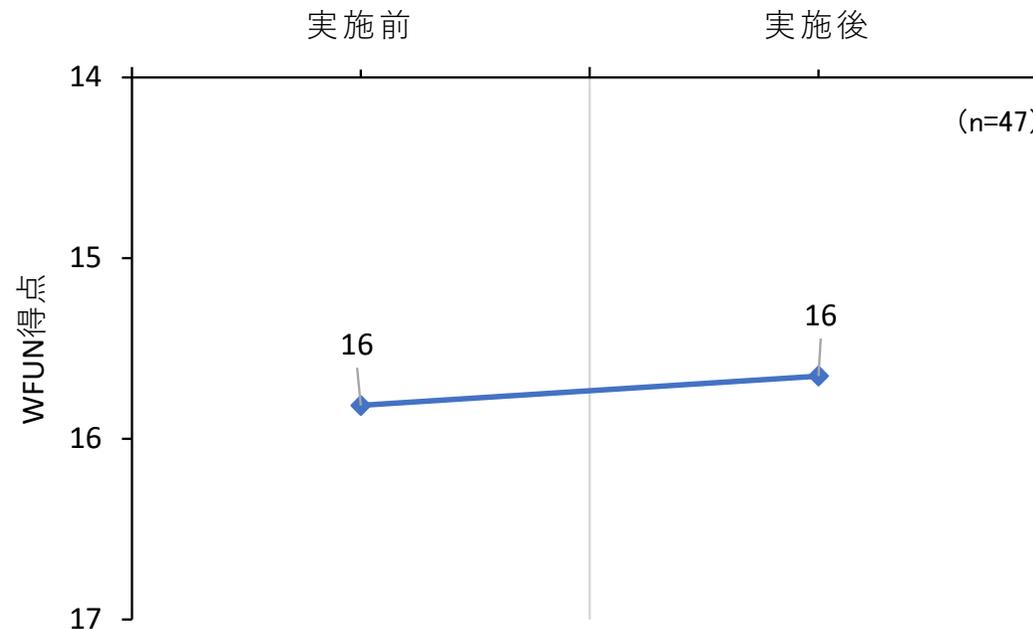


図 ワークーション実施前後のWFunの推移
(値が下がると生産性が下がると解釈される)

(注)WFunは、7～35点の範囲で判定される指標で、得点が高いほど、労働機能障害の程度が高いことを意味します。

(参考)

株式会社シンギュレイト社

鹿内学(理学博士)代表取締役によって2016年に設立されたスタートアップ企業。人材・組織開発、認知神経科学、ソーシャルサイエンスの3つの分野の融合を基盤に、コミュニケーション行動を計測し、可視化し、分析することを目的としている。

ワーク・エンゲージメントとは

仕事に関連するポジティブで充実した心理状態であり、活力、熱意、没頭によって特徴づけられる。ワーク・エンゲージメントは、特定の対象、出来事、個人、行動などに向けられた維持知的な状態ではなく、仕事に向けられた持続的かつ感情と認知のことを指す。(Schaufeli & Bakker, 2004; Schaufeli et al., 2002)

Schaufeli, W. B., & Bakker, A. B. (2004).

Job demands, job resources and their relationship with burnout and engagement: A multi-sample study.

Journal of Organizational Behavior, 25, 293-315

Schaufeli, W. B., & Bakker, M., Gonzalez-Roma V., & Bakker, A. B. (2002).

The measurement of engagement and burnout: A two sample confirmative and analytic approach.

Journal of Happiness Studies, 3, 71-92.

(参考)

ワーケーションに参加者から領収書の回収を行った結果、都道府県別の一人当たりの消費金額は下記のとおりとなりました。

費目	種別	一人当たりの消費金額(円)		
		和歌山県	徳島県	長崎県
宿泊費	旅館・ホテル代	13,873	5,000	2,889
飲食・食事代	レストラン等での食事、飲酒など	3,830	6,675	1,846
交通費	鉄道	227	0	499
	バス・タクシー	867	14,183	735
	船舶	243	0	0
	航空機	10,597	8,210	6,000
	レンタカー	372	0	0
	駐車場代	252	0	0
	自動車燃料	920	0	0
土産・買い物代	食料品(菓子類・お弁当・農水産加工品など)	2,633	2,827	4,071
	酒・飲料	459	35	160
	衣料品	277	0	11
	たばこ	0	0	44
	陶磁器	0	0	367
入場料・施設利用料	娯楽サービス(遊園地、映画館、ゴルフ、マリンスポーツなど)	309	0	0
	教育施設・プログラム(博物館・動物園・水族館・農業体験など)	1,091	0	0
	温浴施設・美容施設(温泉、銭湯、エステ、理髪店、美容院、クリーニングなど)	215	0	74
合計		36,167	36,929	16,696

(参考)

ワーケーション参加者による経済波及効果の計算に当たり、年間での3県へのワーケーション参加者人数を下記の通り試算しました。

項目		数値			単位	出典
		和歌山県	徳島県	長崎県		
(A)	全国延べ宿泊者数(令和3年)	317,773,850			人泊	観光庁 宿泊旅行統計調査報告(令和3年1~12月)
(B)	3県の延べ宿泊者数(令和3年)	3,631,340	1,599,600	4,669,520	人泊	観光庁 宿泊旅行統計調査報告(令和3年1~12月)
(C)=(B)/(A)	3県への観光割合	1.1	0.5	1.5	%	-
(D)	ワーケーション経験率	1.3			%	クロスマーケティング・山梨大学共同調査「ワーケーションに関する調査」(2021年3月)ワーケーション経験率(自宅や会社から離れた観光地)
(E)	2021年平均の就業者数(令和3年)	66,670,000			人	総務省統計局 労働力調査(基本集計) 2021年(令和3年)平均結果
(F)=(D)×(E)	全国の年間ワーケーション参加想定数(一泊あたり)	866,710			人	-
(G)=(F)×(C)	3県への年間ワーケーション参加想定数(一泊あたり)	9,904	4,333	12,736	人	-
(H)=(G)/2泊	3県への年間ワーケーション参加想定数(二泊三日コースの場合)	4,952	2,167	6,368	人	-

(参考)

移住・定住による経済波及効果の計算に当たり、年間での3県への移住者数および移住者による消費金額を下記の通り試算しました。

項目	数値			単位	出典
	和歌山県	徳島県	長崎県		
(A) 一人当たりの県民所得(令和2年度)※1	229,250	261,917	221,250	円/月	各県の県民経済計算より
(B) 平均消費性向	61.8	68.7	71.1	%	2019年全国家計構造調査より算出
(C)=(B)/(A) 一人当たりの民間消費支出増加額	141,677	179,937	157,309	円/月	-
(D) 移住想定者数	50	22	64	人	3県への年間ワーケーション参加想定数(二泊三日コースの場合)の1%が移住を選択したと仮定
(E)=(C)×(D) 移住による年間の民間消費支出増加額 ※2	85,006	47,503	120,813	千円	-

※1 長崎県は令和元年度の県民経済計算を使用

※2 統合中分類107部門の生産誘発係数(民間消費支出)を用いて部門別の最終需要増加額を算出した上で試算を行っている

■企画、集計分析、報告書制作

SOMPOインスティテュート・プラス株式会社

宮本 万理子 副主任研究員

尾形 和哉 副主任研究員

■協力会社

株式会社 シンギュレイト社

問い合わせ先:workation_info@sompo-ri.co.jp



SOMPO インスティテュート・プラス

安心・安全・健康のテーマパーク

本資料は、情報提供を目的に作成しています。正確な情報を掲載するよう努めていますが、情報の正確性について保証するものではありません。本資料の
情報に起因したご利用によって生じたいかなるトラブル、損失、損害についても、
当社および情報提供者は一切の責任を負いません。